

市民意識調査報告書

平成 21 年 9 月

稲 城 市

目次

調査の概要	1
1 回答者の属性	
F 1. 性別	2
F 2. 年齢	2
F 3. 世帯構成	2
F 4. 同居の家族	3
F 5. 居住地区	3
F 6. 居住形態	4
F 7. 職業	4
F 8. 通勤・通学先	5
F 9. 通勤・通学の際、市内で使う交通手段	5
F 10. 居住年数	6
2 稲城市の暮らしやすさについて	
問 1. 稲城市の住みやすさ	7
問 2. 居住意向	8
問 2-1. 住み続けたい理由	9
問 2-2. 転出したい理由	9
問 3. 保健・医療・福祉の満足度	10
問 4. 教育・文化の満足度	13
問 5. 商工業・観光・農林業の満足度	15
問 6. 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度	17
問 7. 市民参加や市政運営の満足度	21
3 稲城市のまちづくりの方向について	
問 8. 市の将来像のイメージ	23
問 9. 進めるべきまちづくり	26
4 今後の施策等について	
問 10. 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策	28
問 11. 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス	30
問 12. 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス	32
問 13. 学校教育について力を入れるべき施策	34
問 14. 生涯学習について力を入れるべき施策やサービス	36
問 15. 週に1回以上の運動	37

問 15-1. 行っていない理由	38
問 16. 商工業・観光・農業について力を入れるべき施策	40
問 17. 都市基盤について力を入れるべき施策	41
問 18. 生活環境について力を入れるべき施策	45
問 19. 防災や防犯について力を入れるべき施策	46
問 20. 墓地の所有	47
問 21. 墓地の取得を検討する上での市民墓地について	48
問 22. 市民墓地のあり方として適切だと思うこと	49
問 23. 公営のメモリアルホールについて	49
問 24. 近所づきあいの程度	50
問 25. 地域団体や組織の参加意向	52
問 26. 行政施策への関心度	53
問 27. 市民と行政との協働によりまちづくりを進めることについて .	54
問 28. 広報いなぎの精読度	55
問 29. 市の公式ホームページの閲覧状況	56
問 30. 市の行政への参加方法	57
問 30-1. 参加したくない・できない理由	57

5 自由記述

自由記述の内容別件数及び主な意見	59
------------------------	----

資料編

単純集計表	63
調査票	79

調査の概要

1 調査の目的

(仮称)第四次稲城市長期総合計画の策定にあたり、市民の意向を把握し、計画に反映させるとともに、行政運営の参考資料とすることを目的として、「市民意向調査」を行いました。

2 調査の方法

住民基本台帳に基づく層化無作為抽出 (16 歳以上)

郵送配布、郵送回収

調査期間 平成 21 年 5 月 12 日～5 月 31 日

配布数 2000 票

3 調査結果

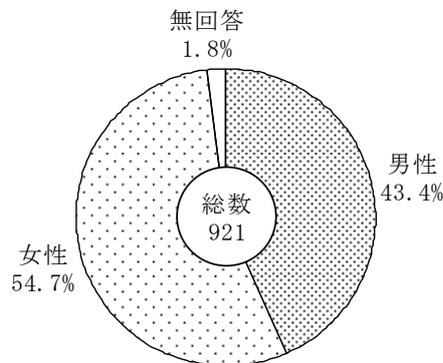
有効回収数 921 票 (46.1%)

4 調査結果についての注意

- ① アンケート調査を集計した数値は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示しました。そのため、質問に対する回答の選択肢が一つだけの場合でも、回答の数値 (% の値) をすべて足しあわせても 100% にならない場合があります。
- ② 複数の選択肢を選んで回答している場合、回答者数を分母として割合を算出しているため、各選択肢の割合を合計した値が 100% を超過します。
- ③ 調査結果については、単純集計のほか、性別、年齢別、地域別のクロス集計を行いました。全体の傾向と異なる結果が表れたものについて、本文中に掲載しています。

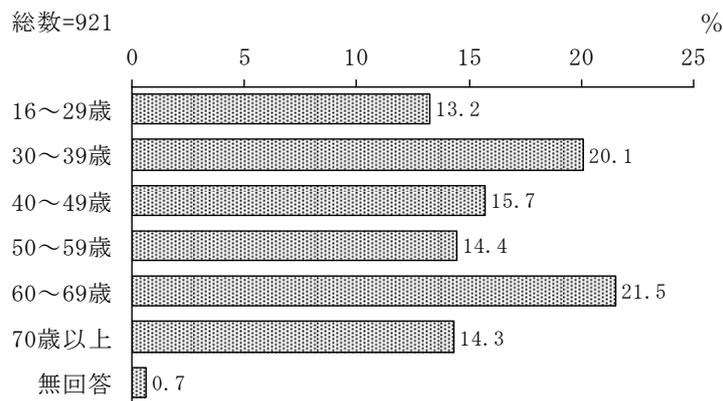
1 回答者の属性

F1 性別



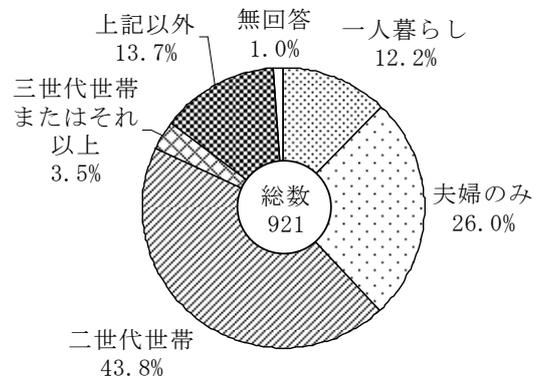
回答者の性別は、女性 54.7%、男性 43.4%と女性の回答者が男性の回答者を 11 ポイント上回っています。

F2 年齢



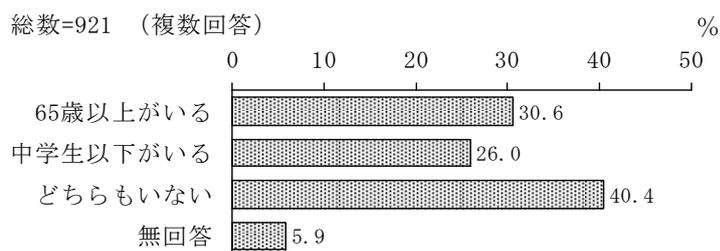
回答者を年齢別に見ると、60～69歳が 21.5%で最も多く、次いで 30～39歳が 20.1%でした。他の年代はおおむね 15%程度でした。

F3 世帯構成



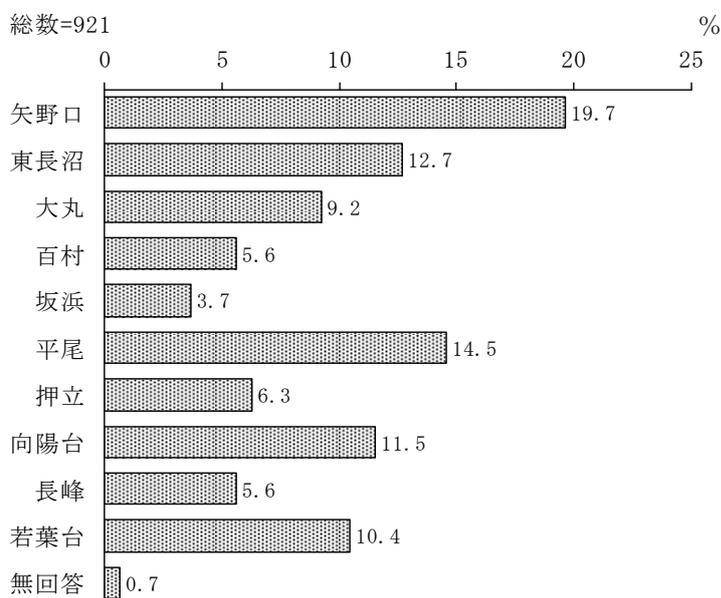
回答者の世帯構成は、多い順に、親子のみの「二世世代世帯」が 43.8%、「夫婦のみ」が 26.0%、「一人暮らし」が 12.2%となり、「三世世代世帯またはそれ以上」は 3.5%にとどまりました。

F4 同居の家族



回答者の同居家族で「65歳以上がいる」と回答したのは30.6%、「中学生以下がいる」は26.0%です。

F5 居住地区



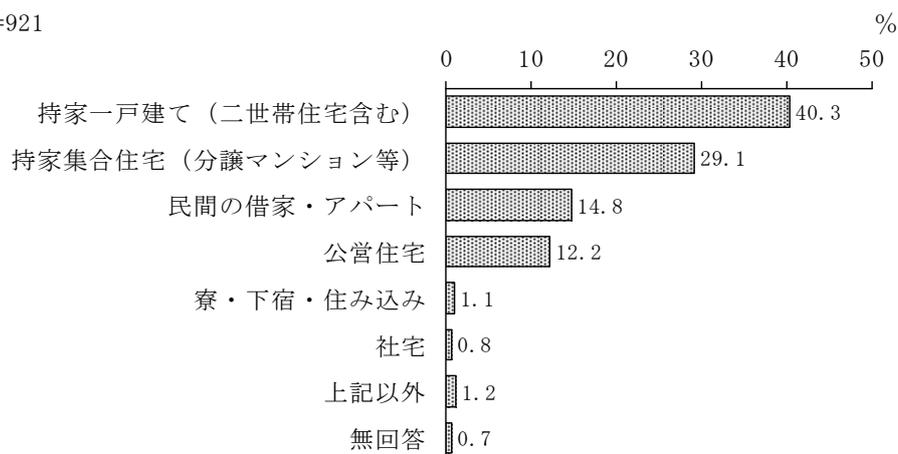
回答者の居住地区は、矢野口が19.7%、平尾が14.5%などとなっており、市内の各地区別人口割合と大きく異なることはありません。

【参考・各地区別の住民基本台帳人口（平成21年4月1日現在）】

地区名	世帯数	男性	女性	合計	比率
矢野口	6,944	7,925	7,330	15,255	18.7%
東長沼	5,083	5,977	5,474	11,451	14.0%
大丸	3,954	4,411	4,007	8,418	10.3%
百村	1,911	2,240	2,046	4,286	5.3%
坂浜	1,129	1,449	1,291	2,740	3.4%
平尾	5,174	5,347	5,533	10,880	13.3%
押立	1,859	2,304	2,083	4,387	5.4%
向陽台	3,299	4,558	4,693	9,251	11.3%
長峰	1,537	2,177	2,303	4,480	5.5%
若葉台	3,365	5,135	5,282	10,417	12.8%
合計	34,255	41,523	42,042	81,565	100.0%

F6 居住形態

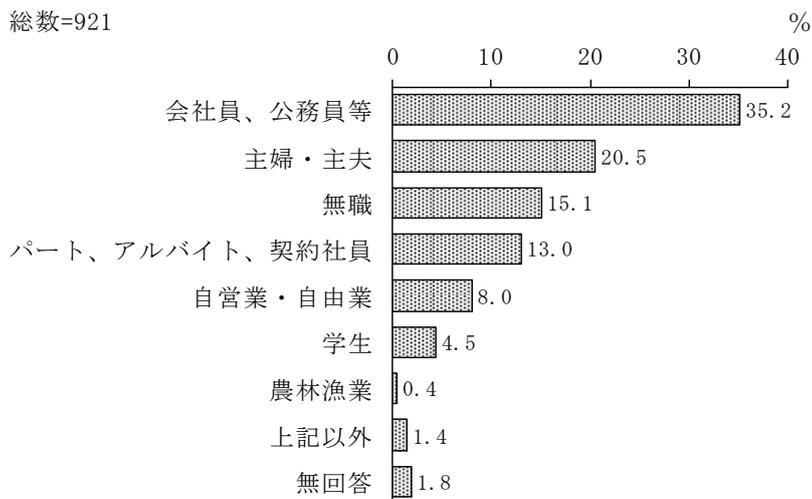
総数=921



回答者の居住形態は、「持家一戸建て」が40.3%を占め、「持家集合住宅」と合わせると約7割が持ち家に居住しています。

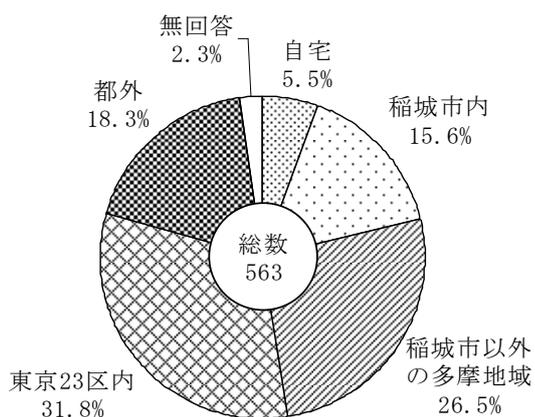
F7 職業

総数=921



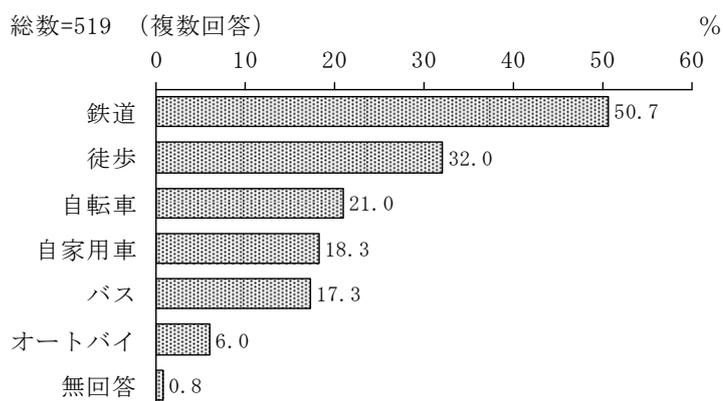
回答者の職業は、「会社員、公務員等」が35.2%で最も多く、次いで「主婦・主夫」が20.5%でした。

F8 通勤・通学先



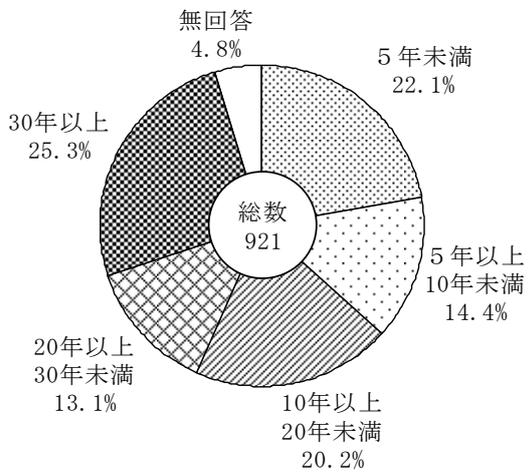
回答者の通勤・通学先は、東京23区内が最も多く31.8%、稲城市以外の多摩地域が26.5%、都外が18.3%、稲城市内が15.6%でした。

F9 通勤・通学の際、市内で使う交通手段



回答者が通勤・通学の際に市内で使う交通手段は、鉄道が50.7%と半数を占め、次いで徒歩32.0%、自転車21.0%、自家用車18.3%、バス17.3%と続きます。

F10 居住年数



回答者の居住年数は、30年以上が25.3%で最も多く、次いで5年未満22.1%、10年以上20年未満20.2%と続きます。

居住地別では、若葉台地区では5年未満と5年以上10年未満の合計が4分の3を超えている一方、坂浜地区では30年以上がおよそ6割に達しております。

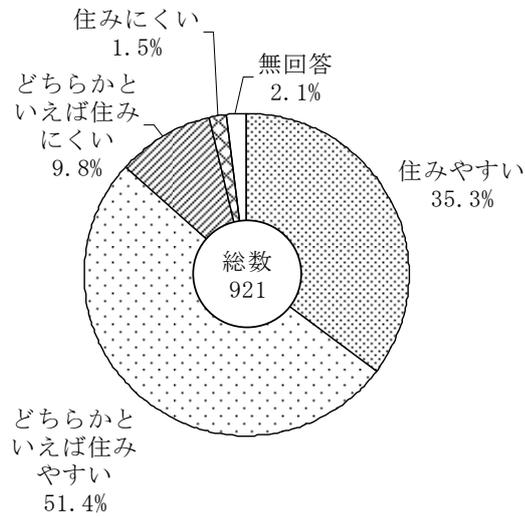
単位:% (5%未満非表示)

	5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	無回答
全体(921)	22.1	14.4	20.2	13.1	25.3	
矢野口(181)	32.6	10.5	11.6	10.5	29.3	5.5
東長沼(117)	23.1	6.0	20.5	12.0	31.6	6.8
大丸(85)	12.9	12.9	20.0	16.5	30.6	7.1
百村(52)	11.5	11.5	38.5	11.5	23.1	
坂浜(34)	5.9	5.9	11.8	8.8	58.8	8.8
平尾(134)	18.7	9.7	11.9	20.1	38.8	
押立(58)	3.6	6.9	15.5	13.8	44.8	10.3
向陽台(106)	31.1	15.1	28.3	20.8		
長峰(52)	11.5	21.2	59.6			
若葉台(96)	31.3	45.8	14.6	6.3		

2 稲城市の暮らしやすさについて

問1 あなたは、稲城市を住みやすいところだと思いますか。次の中から選んでください。

【問1 稲城市は住みやすいか】



「住みやすい」が35.3%あり、これに「どちらかといえば住みやすい」の51.4%を加えると住みよいと答えた人は86.7%となります。一方「やや住みにくい」、「住みにくい」と答えた人を合わせると11.3%となりました。

【問1 稲城市は住みやすいか（地区別）】

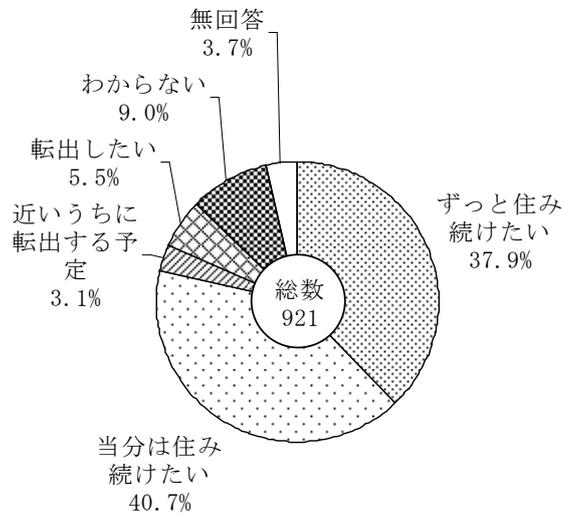
単位：%（5%未満非表示）

地区別では、百村地区で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計が96.2%で最も高く、次いで若葉台地区で93.7%となっています。

	住みやすい	どちらかといえば住みやすい	どちらかといえば住みにくい	住みにくい	無回答
全体(921)	35.3	51.4	9.8	1.5	2.1
矢野口(181)	36.5	50.8	8.8	1.5	2.1
東長沼(117)	35.0	49.6	10.3	1.5	2.1
大丸(85)	30.6	52.9	12.9	1.5	2.1
百村(52)	21.2	75.0	1.5	1.5	2.1
坂浜(34)	32.4	44.1	8.8	11.8	2.1
平尾(134)	37.3	48.5	11.9	1.5	2.1
押立(58)	29.3	53.4	13.8	1.5	2.1
向陽台(106)	41.5	47.2	9.4	1.5	2.1
長峰(52)	34.6	46.2	17.3	1.5	2.1
若葉台(96)	40.6	53.1	1.5	1.5	2.1

問2 あなたは、これからもずっと稲城市に住み続けたいと思いますか。

【問2 今後の居住意向】



「ずっと住み続けたい」が 37.9%、「当分は住み続けたい」が 40.7%と、「住み続けたい」意向の人がおよそ8割に達しています。

【問2 今後の居住意向（地区別）】

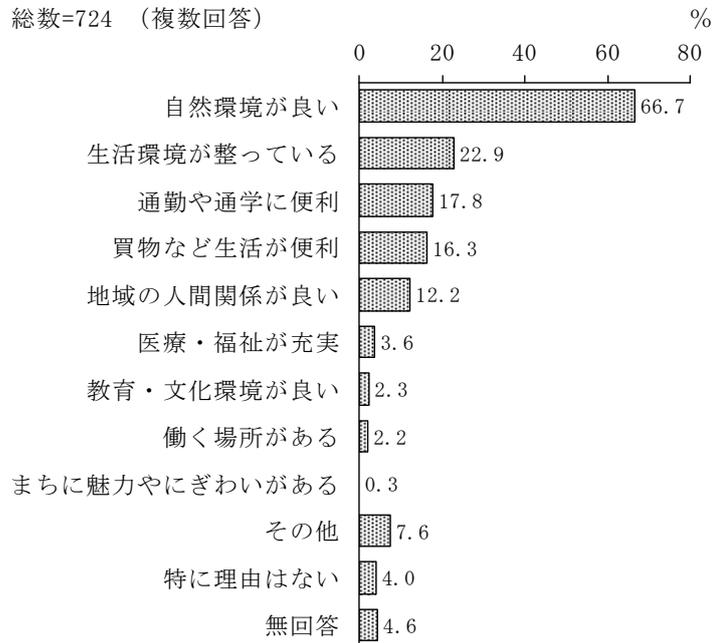
単位:% (5%未満非表示)

	ずっと住み続けたい	当分は住み続けたい	近いうちに転出する予定	転出したい	わからない	無回答
全体 (921)	37.9	40.7	3.1	5.5	9.0	3.7
16～29歳 (122)	16.4	41.0	9.8	16.4	15.6	
30～39歳 (185)	27.0	49.2	7.0	9.7		
40～49歳 (145)	30.3	53.1	3.3			
50～59歳 (133)	36.1	47.4	5.3	7.5		
60～69歳 (198)	52.0	30.3	8.1	5.6		
70歳以上 (132)	62.1	24.2	6.1	5.3		

年齢別に見ると、年齢が進むに従って「ずっと住み続けたい」が増加する傾向にあります。

問2-1 問2で「ずっと住み続けたい」または「当分は住み続けたい」と答えた方におたずねします。住み続けたい理由は何ですか。

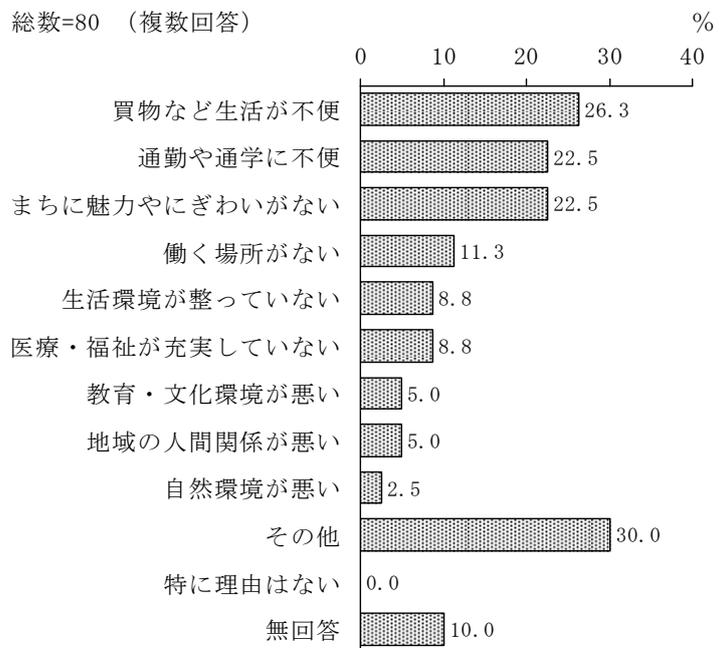
【問2-1 住み続けたい理由】



最も多い回答は「自然環境が良い」の66.7%であり、第2位の「生活環境が整っている」の22.9%の約3倍となっています。

問2-2 問2で「転出したい」または「近いうちに転出する予定」と答えた方におたずねします。転出したい理由は何ですか。

問2-2 転出したい理由



転出したい理由では、「買物など生活が不便」(26.3%)、「通勤や通学に不便」(22.5%)、「まちに魅力やにぎわいがない」(22.5%)などとなっています。

次の問3から問7までは、アンケートの単純集計に加え、市民の皆さんがそれぞれの市の施策についてどの程度満足しているかを測るために、加重平均による数値化を行いました。

〈算出方法〉

「満足」を+2点、「やや満足」を+1点、「やや不満」を-1点、「不満」を-2点、「わからない」を0点としてそれぞれの回答を点数に換算します。次に施策ごとに回答者の点数の合計を算出します。

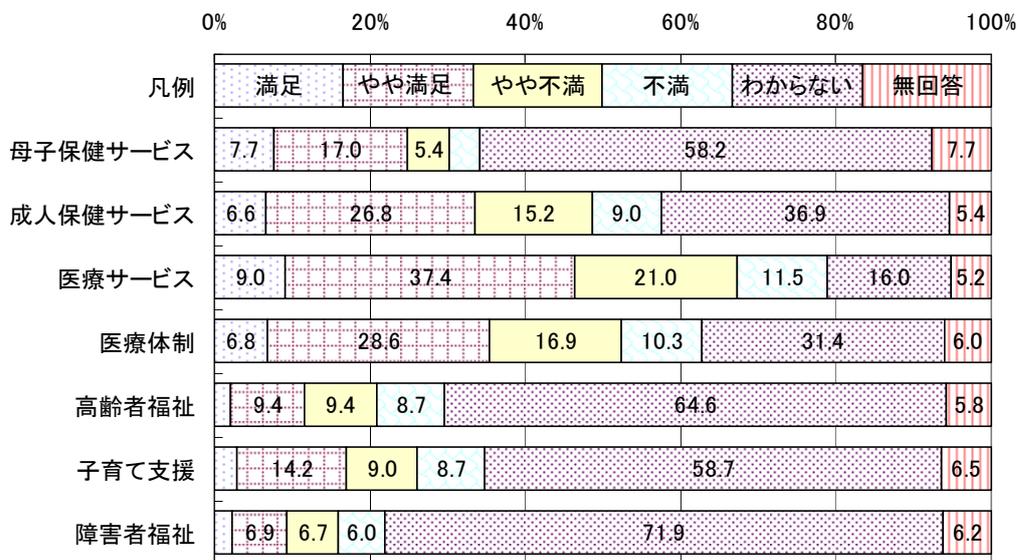
その合計点を「無回答」を除いた人数で割って、各施策の得点を算出します。

※ この方式で算出すると、それぞれの得点は+2点から-2点の間で表されます。満足度が高いものは+に、満足度が低いものは-に得点が分布します。

問3 保健・医療・福祉の施策やサービスに関する次の項目について、あなたは満足していますか。

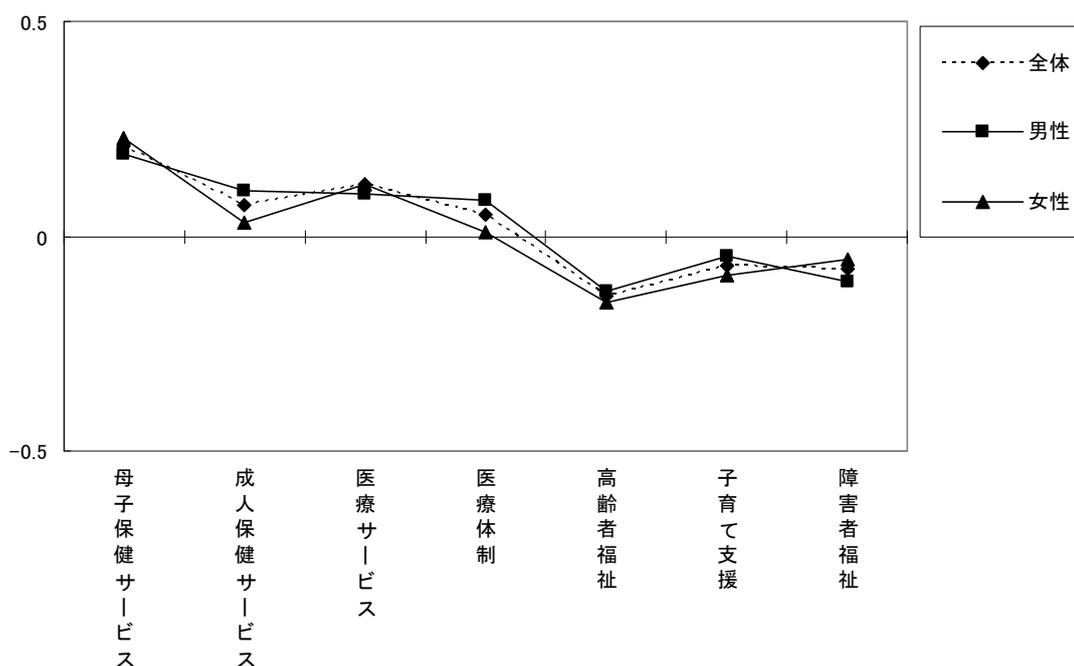
【問3 保健・医療・福祉の満足度】

(5%未満非表示)



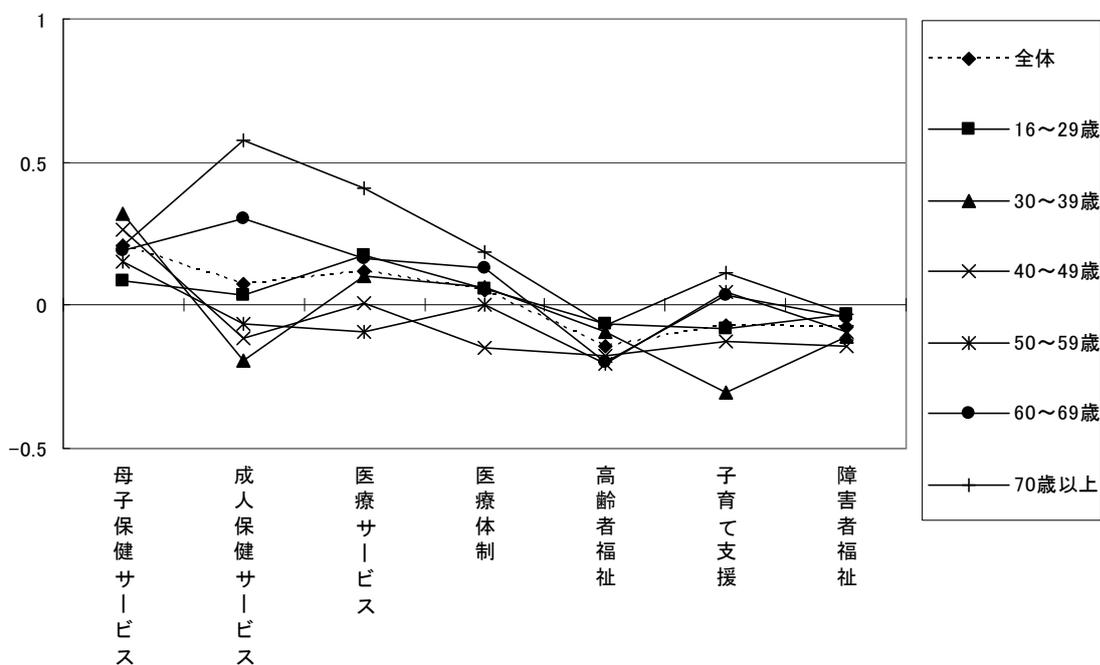
保健・医療・福祉分野の満足度について、「医療サービス」を除き「わからない」が最も多い回答になりました。

【問3 保健・医療・福祉の満足度（評価点・性別）】



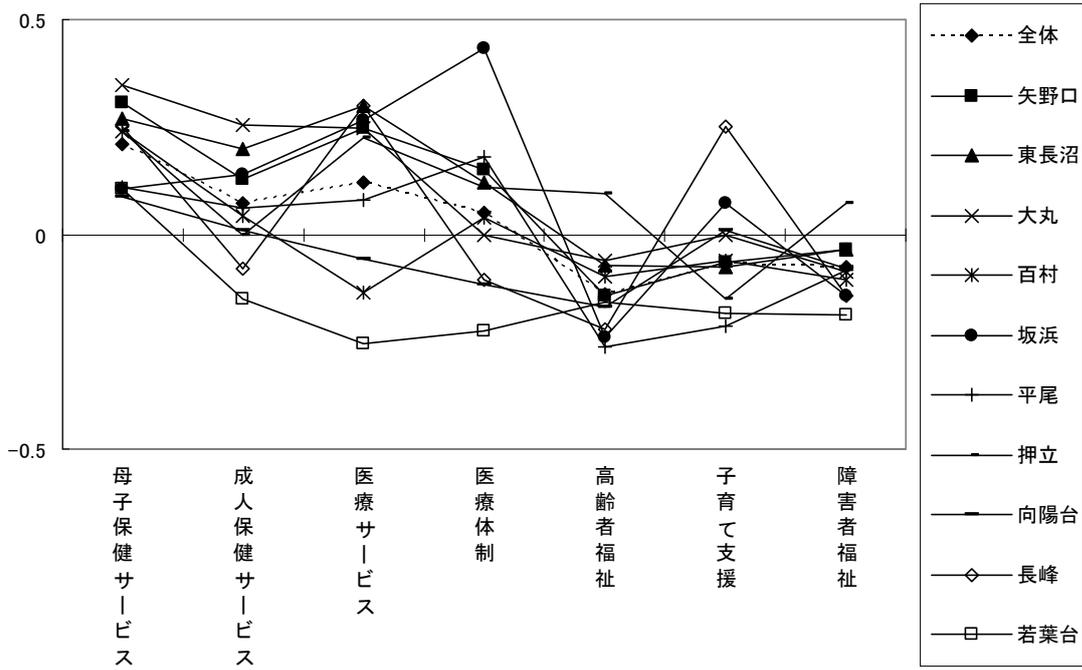
保健・医療・福祉分野で、最も満足度が高かったのは「母子保健サービス」であり、最も満足度が低かったのは「高齢者福祉」でした。
性別での大きな差はありませんでした。

【問3 保健・医療・福祉の満足度（評価点・年齢別）】



年齢別では、母子保健サービスを除き 70 歳以上の満足度が他の年代に比べて各項目で高くなっています。30~39 歳では成人保健サービスと子育て支援の満足度が低くなっています。

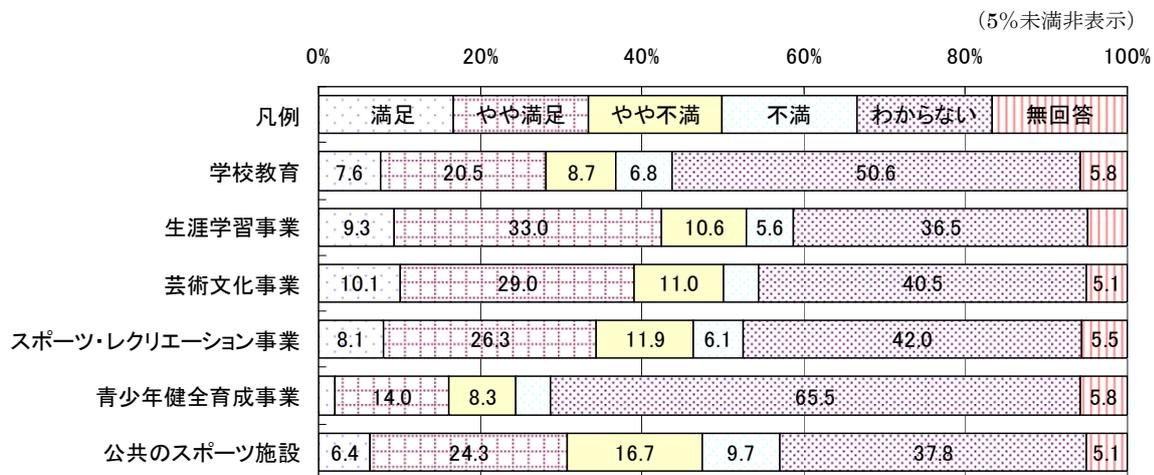
【問3 保健・医療・福祉の満足度（評価点・地域別）】



地域別では、坂浜地区では医療体制の満足度が高く、長峰地区では子育て支援の満足度が高い結果となっています。若葉台地区では各項目で満足度が低迷しています。

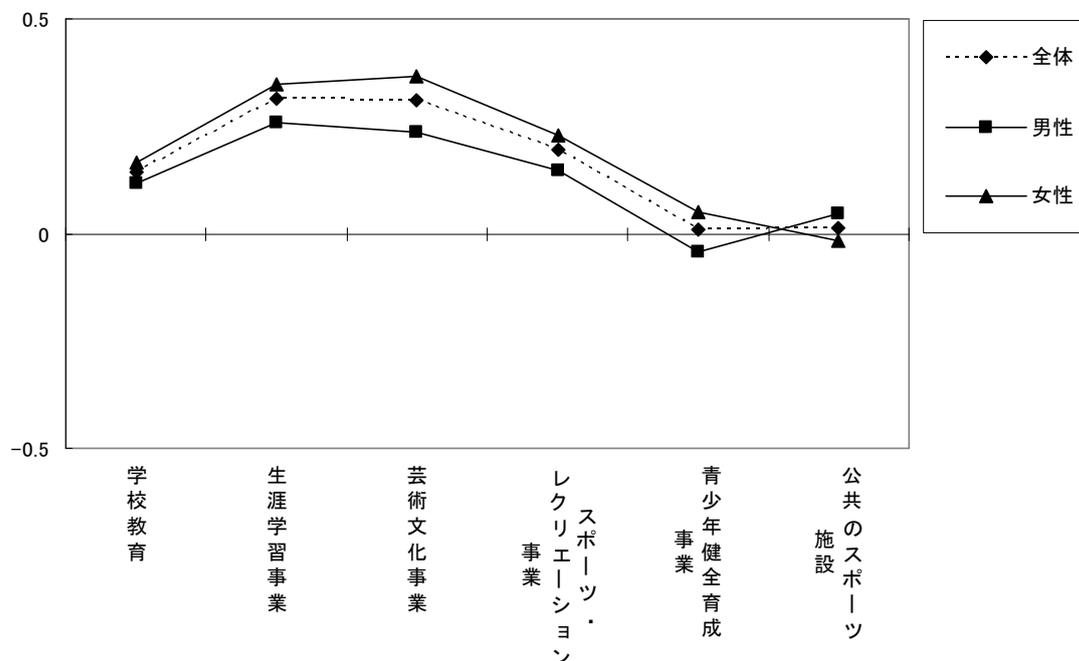
問4 教育・文化の施策やサービスに関する次の項目について、あなたは満足していますか。

【問4 教育・文化の満足度】



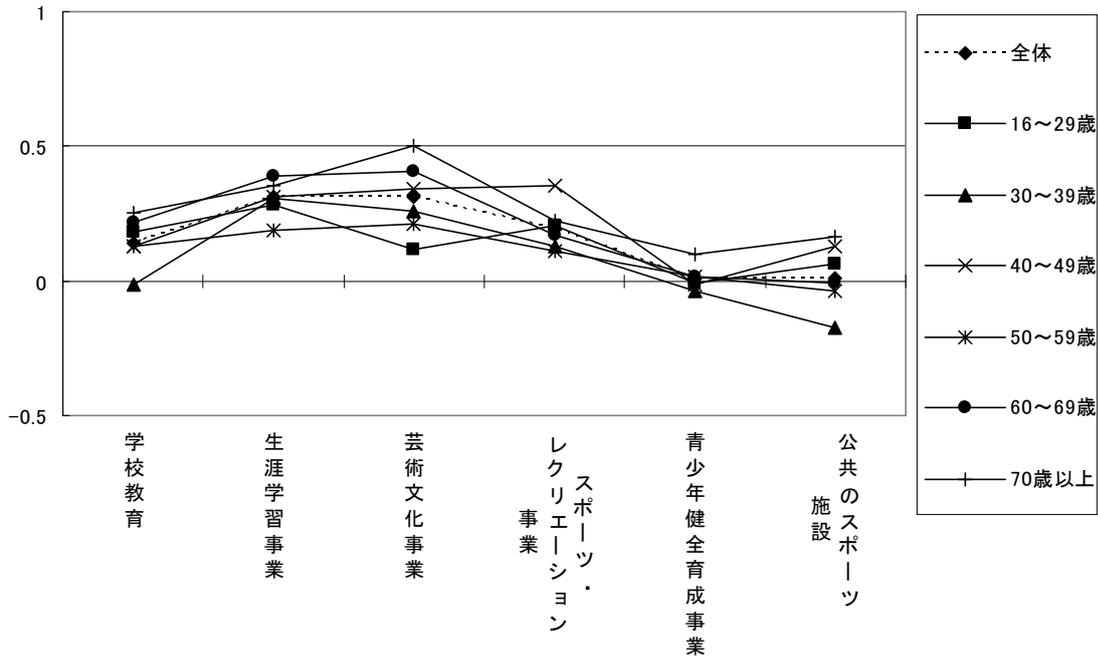
「満足」と「やや満足」を合わせた値では、「生涯学習事業」が42.3%と最も多く、次いで「芸術文化事業」が39.1%でした。「青少年健全育成事業」では、「わからない」と「無回答」の合計が7割を超えています。

【問4 教育・文化の満足度（評価点・性別）】



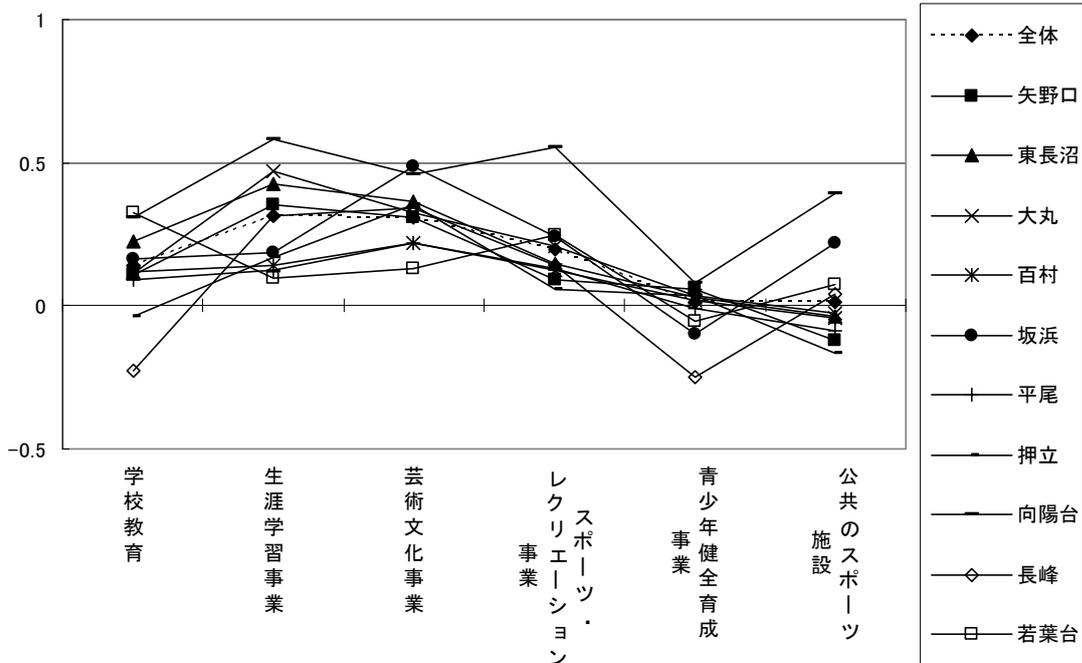
教育・文化の満足度では、「公共のスポーツ施設」を除き、女性の方が男性よりもやや満足度が高くなっています。

【問4 教育・文化の満足度（評価点・年齢別）】



年齢別では、30～39歳で「学校教育」と「公共のスポーツ施設」に関する満足度が他の年代よりも低くなっています。

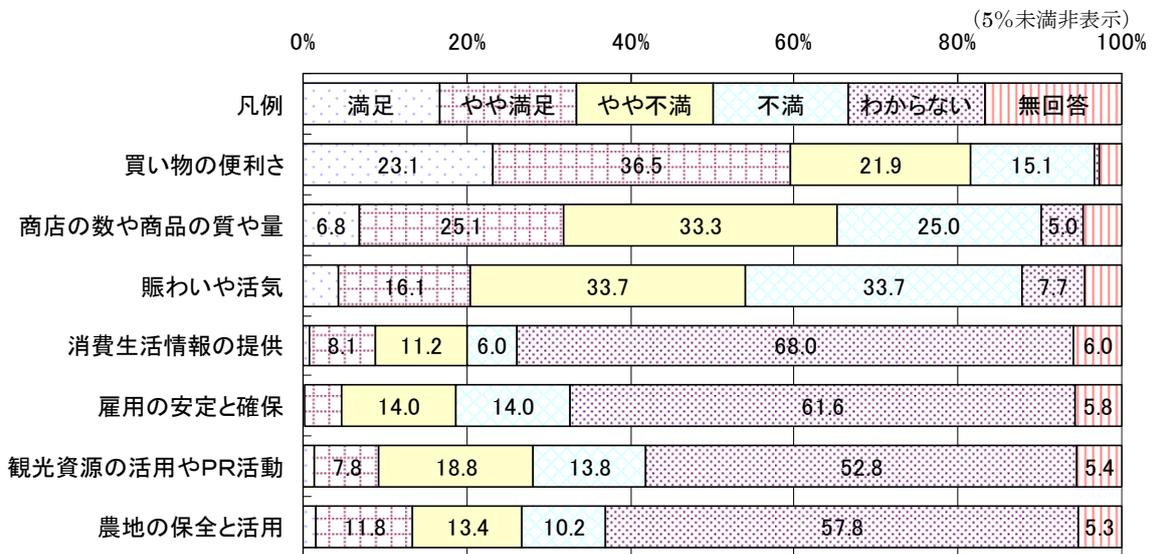
【問4 教育・文化の満足度（評価点・地区別）】



地区別では、向陽台地区では、どの事業についても満足度が高くなっています。一方、長峰地区では「学校教育」と「青少年健全育成事業」の満足度が低くなっています。

問5 商工業・観光・農林業の施策に関する次の項目について、あなたは満足していますか。

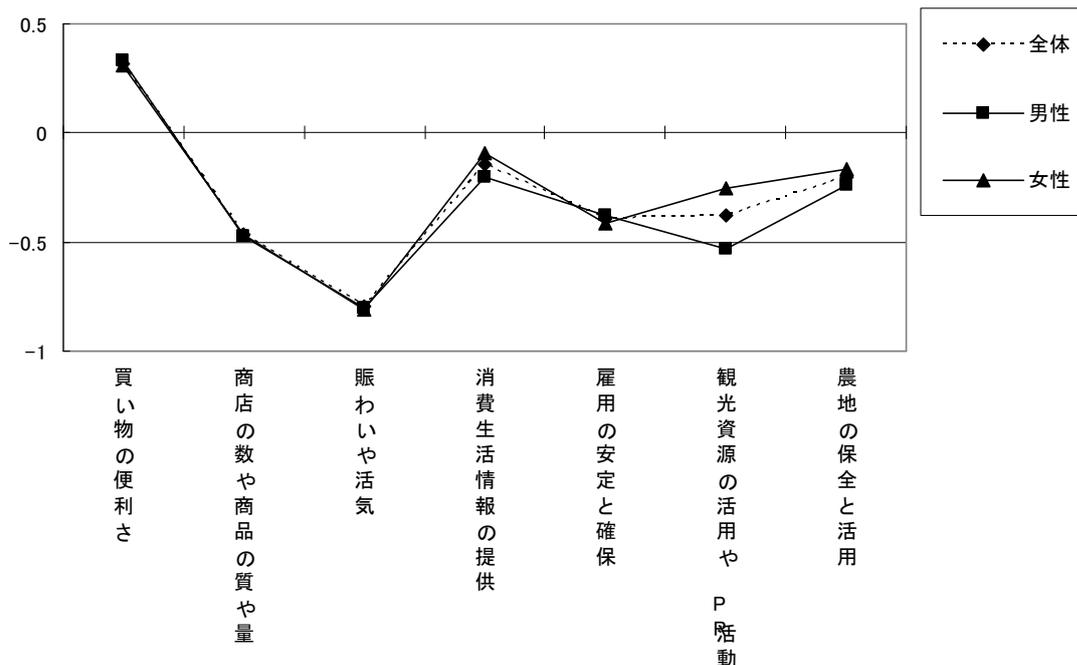
【問5 商工業・観光・農林業の満足度】



「買い物の便利さ」では、満足とやや満足を合わせた値が約6割なのに対し、「商店の数や商品の質や量」では「不満」と「やや不満」の合計が約6割となっています。

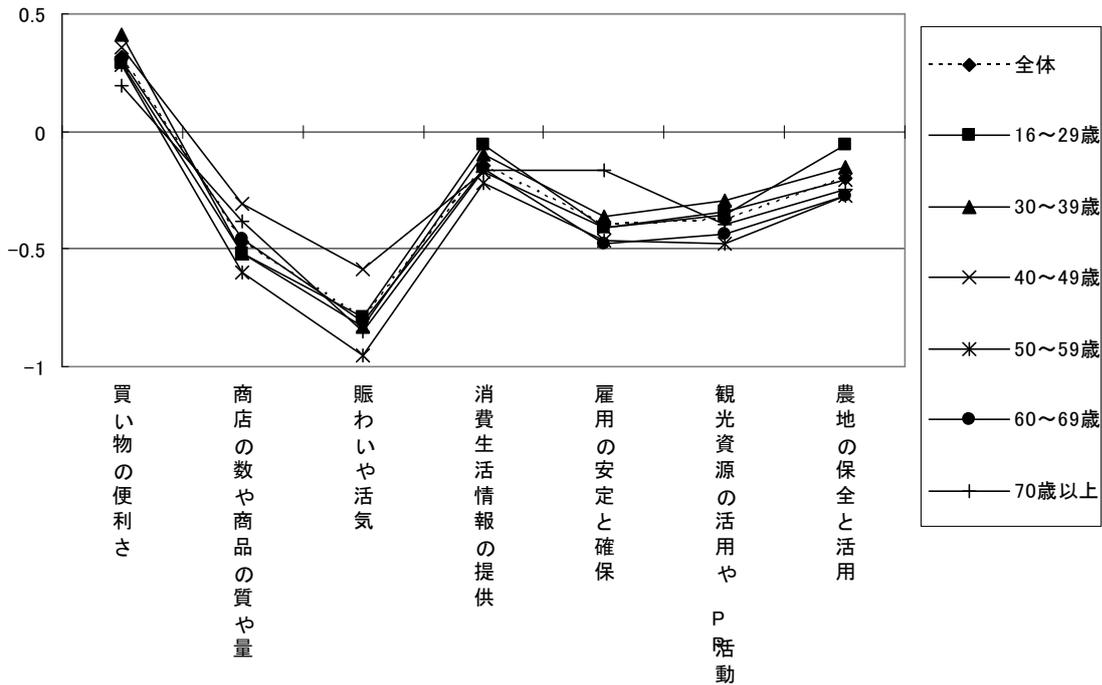
また、以下の回答者別の商工業・観光・農林業の満足度では得点が+（満足）となっている項目は「買い物の便利さ」のみで、他の項目は軒並み-（不満足）となっています。とりわけ「賑わいや活気」の満足度が低くなっています。

【問5 商工業・観光・農林業の満足度（評価点・性別）】



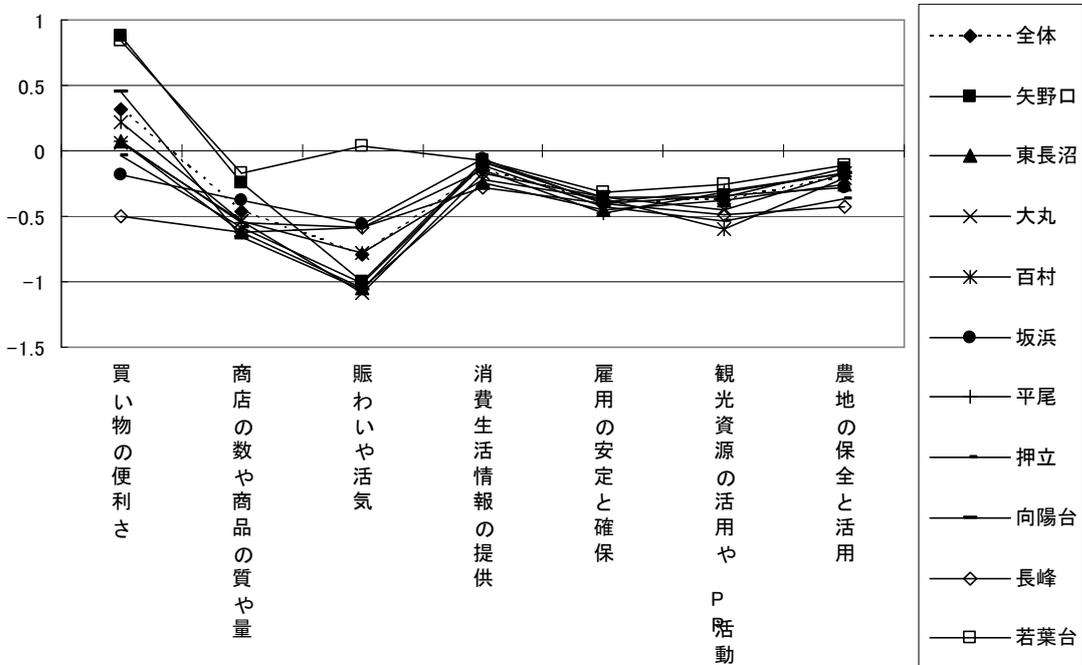
性別では、「観光資源の活用やPR活動」を除き男女に大きな差はありません。

【問5 商工業・観光・農林業の満足度（評価点・年齢別）】



年齢別では、40～49歳で「賑わいや活気」の満足度が、70歳以上で「雇用の安定と確保」の満足度が他の年代に比べて高く、50～59歳で「賑わいや活気」についての満足度が他の年代に比べて低くなっています。

【問5 商工業・観光・農林業の満足度（評価点・地区別）】



地区別では、矢野口と若葉台で「買い物の便利さ」が、若葉台で「賑わいや活気」の満足度が他の地区よりも高くなっています。

問6 都市基盤・生活環境・防災や防犯の施策に関する次の項目について、あなたは満足していますか。

【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度】

(5%未満非表示)

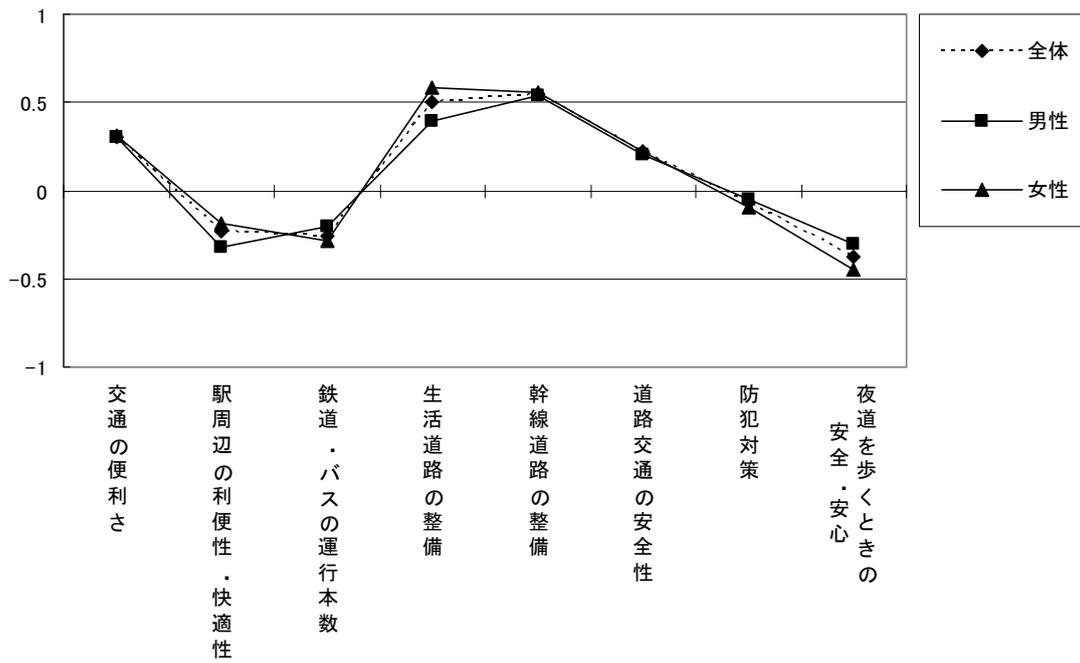


「満足」と「やや満足」の合計が高いのは、「自然の豊かさ」(87.7%)、「公園・緑地の整備状況」(76.7%)、「ゴミの収集状況」(76.2%)、「まちの美観」(66.9%)です。

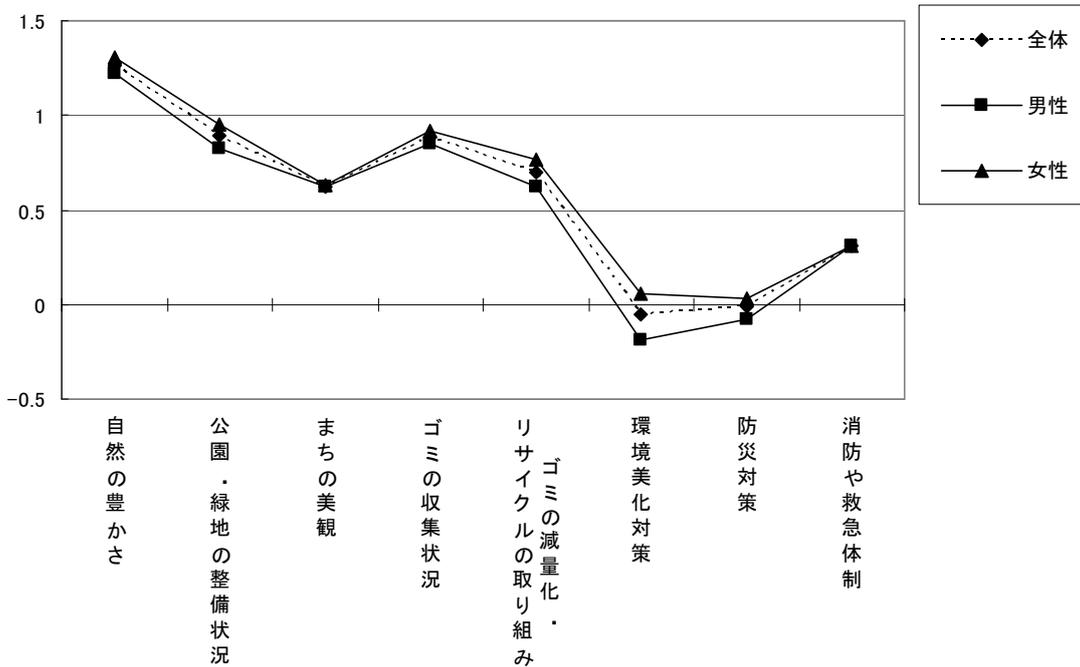
一方、「やや不満」と「不満」の合計が高いのは、「夜道を歩くときの安全・安心」(52.7%)、「鉄道・バスの運行本数」(52.6%)、「駅周辺の利便性・快適性」(52.1%)です。

また、「防災対策」と「消防や救急体制」では、「わからない」が他の項目よりも高くなっています。

【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度（評価点・性別）】

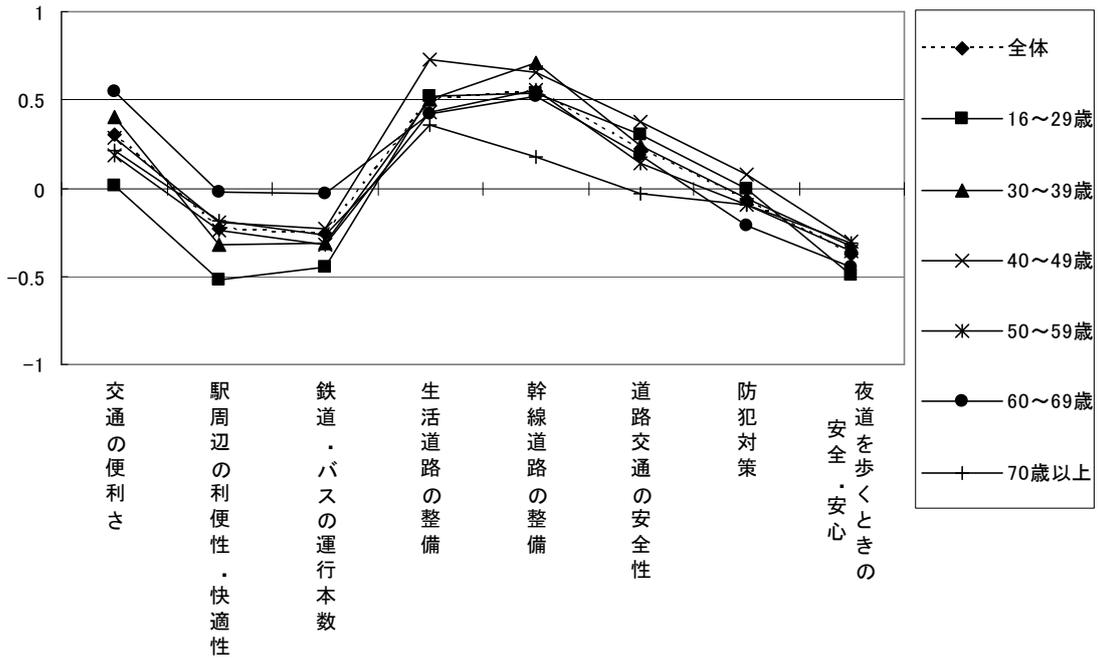


【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度・つづき（評価点・性別）】

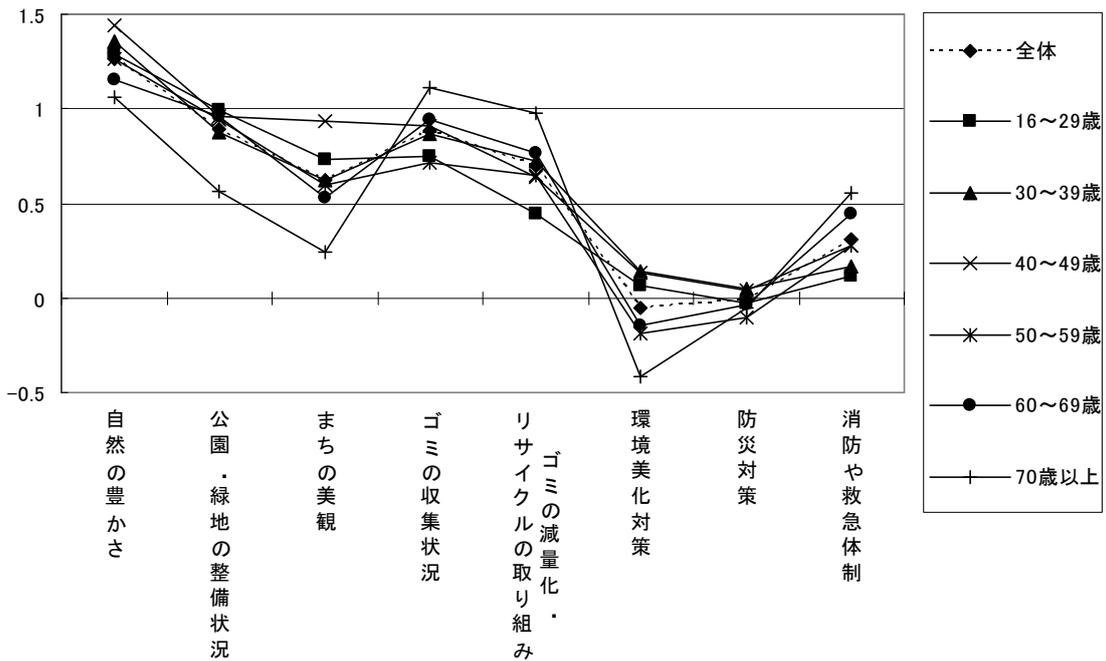


都市基盤・生活環境・防災防犯の各項目の満足度について、男女での大きな差はありません。

【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度（評価点・年齢別）】



【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度・つづき（評価点・年齢別）】

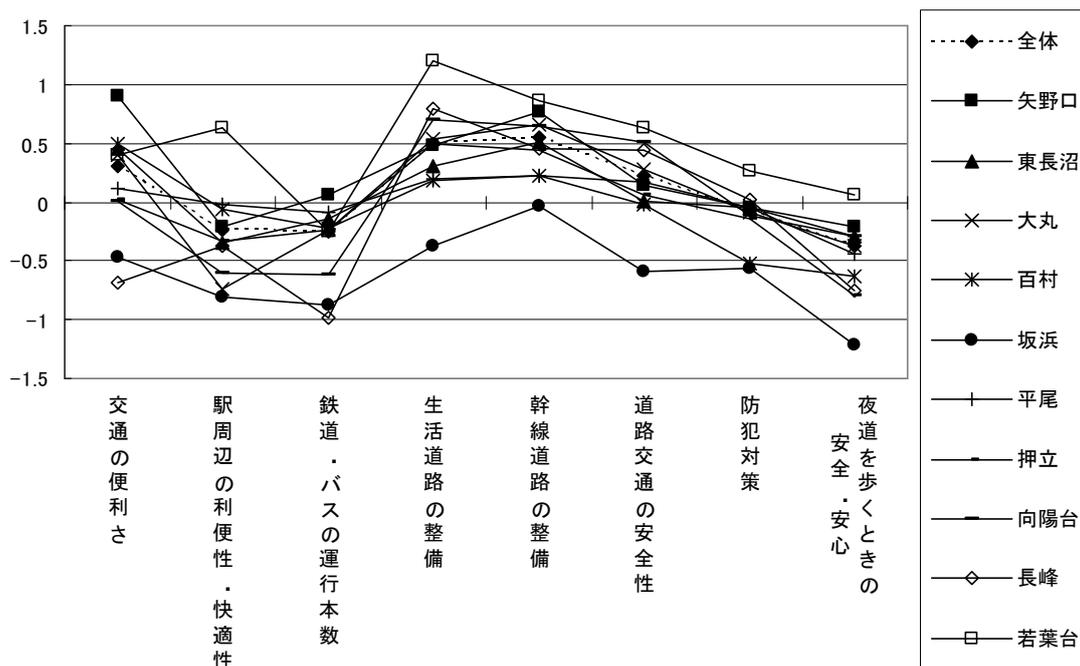


年齢別では、70歳以上で「幹線道路の整備」「道路交通の安全性」「自然の豊かさ」「公園・緑地の整備状況」「まちの美観」「環境美化対策」の各項目で、他の年代に比べて満足度が低くなっています。

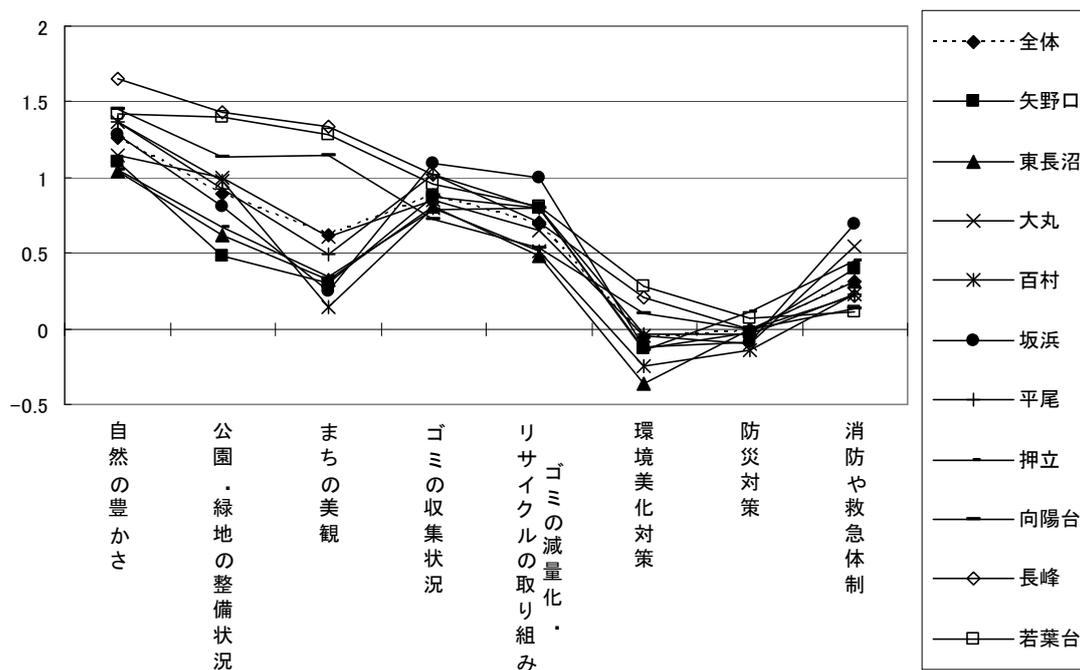
16～29歳では「交通の便利さ」「駅周辺の利便性・快適性」「鉄道・バスの運行本数」「ごみの減量化・リサイクルの取り組み」で、他の年代に比べて満足度が低くなっています。

60～69歳では「交通の便利さ」「駅周辺の利便性・快適性」「鉄道・バスの運行本数」で、他の年代に比べて満足度が高くなっています。

【問6 都市基盤・生活環境・防災別防犯の満足度（評価点・地区別）】



【問6 都市基盤・生活環境・防災防犯の満足度・つづき（評価点・地区別）】



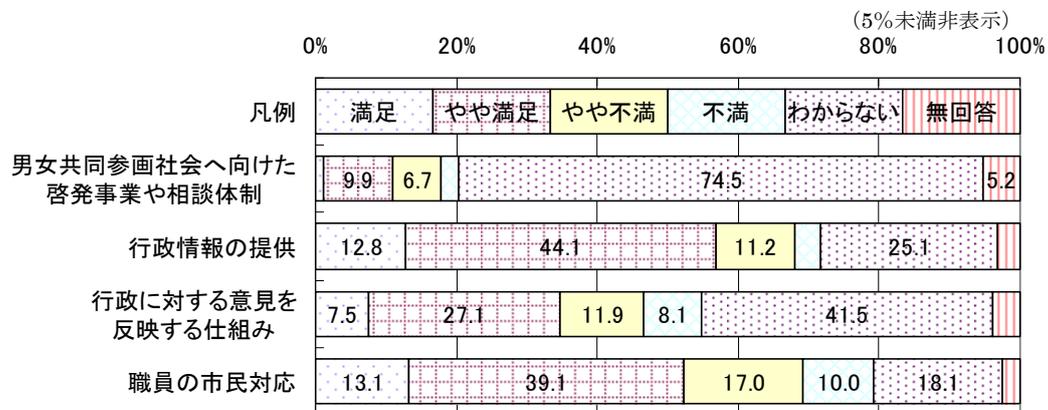
地区別では、若葉台地区で「生活道路の整備」「幹線道路の整備」「道路交通の安全性」「防犯対策」「夜道を歩くときの安全・安心」の満足度が高くなっています。

坂浜地区では、「生活道路の整備」「幹線道路の整備」「道路交通の安全性」の満足度が低くなっています。

長峰地区では、「交通の便利さ」「鉄道・バスの運行本数」の満足度が低い一方、「自然の豊かさ」「公園・緑地の整備状況」「まちの美観」の満足度が高くなっています。

問7 市民参加や市政運営の施策に関する次の項目について、あなたは満足していますか。

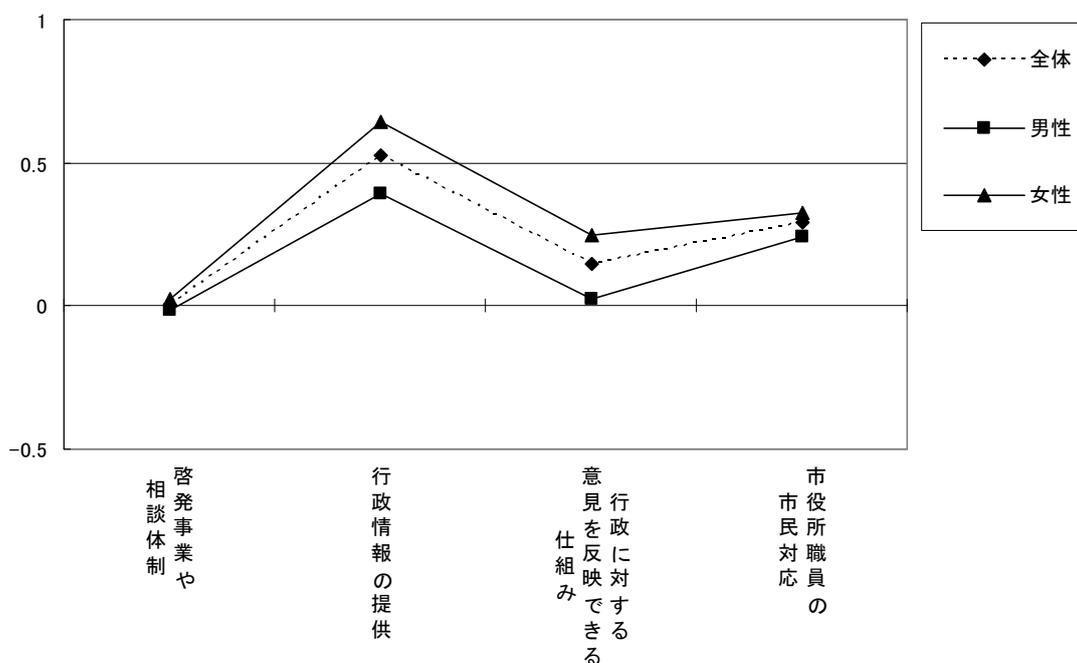
【問7 市民参加や市政運営の満足度】



「行政情報の提供」と「職員の市民対応」では、満足とやや満足の合計が半数を上回っています。

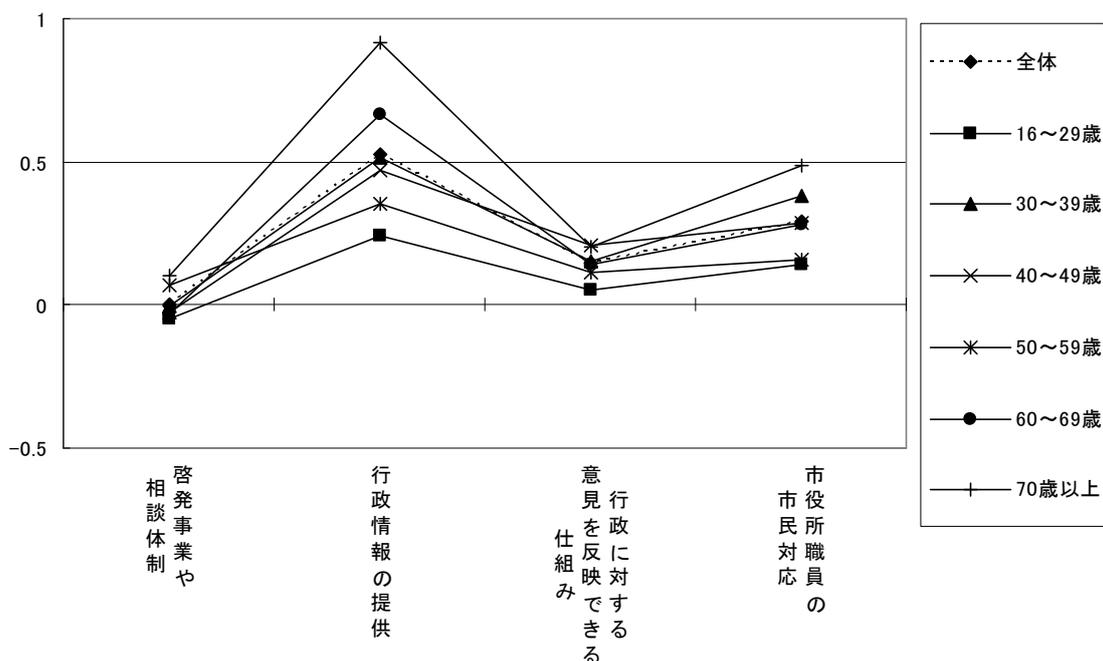
「男女共同参画社会へ向けた啓発事業や相談体制」は、わからないと無回答の合計が約8割に達しています。

【問7 市民参加や市政運営の満足度（評価点・性別）】



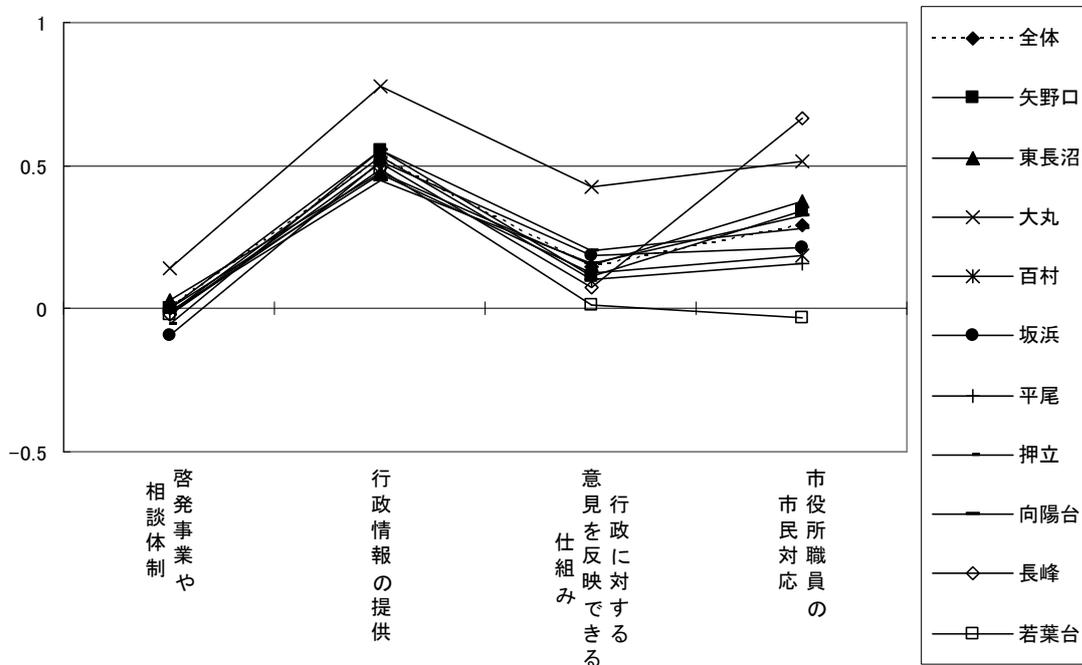
「行政情報の提供」と「行政に対する意見を反映できる仕組み」では、女性の方が男性よりも満足度が高くなっています。

【問7 市民参加や市政運営の満足度（評価点・年齢別）】



70歳以上では「行政情報の提供」についての満足度が高くなっています。

【問7 市民参加や市政運営の満足度（評価点・地区別）】



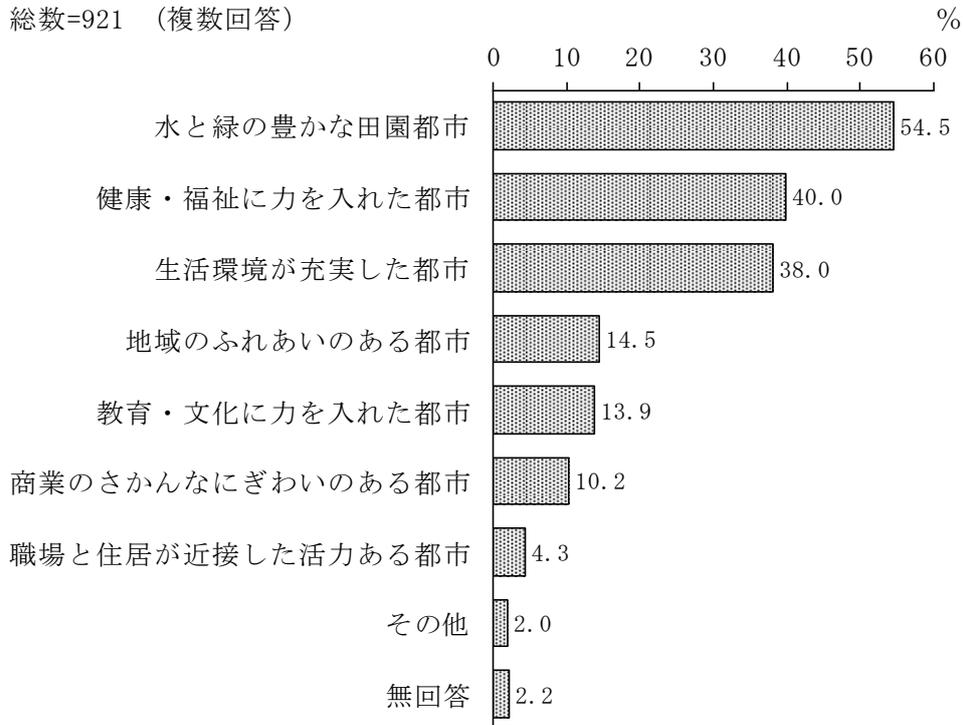
地区別では、大丸地区で「啓発事業や相談体制」「行政情報の提供」「行政に対する意見を反映できる仕組み」の満足度が高くなっています。「市役所職員の市民対応」については、他地区と比べて長峰地区で高く、若葉台地区で低い評価となりました。

3 稲城市のまちづくりの方向について

問8 市の将来像として、あなたのイメージに最も近いものはどれですか。

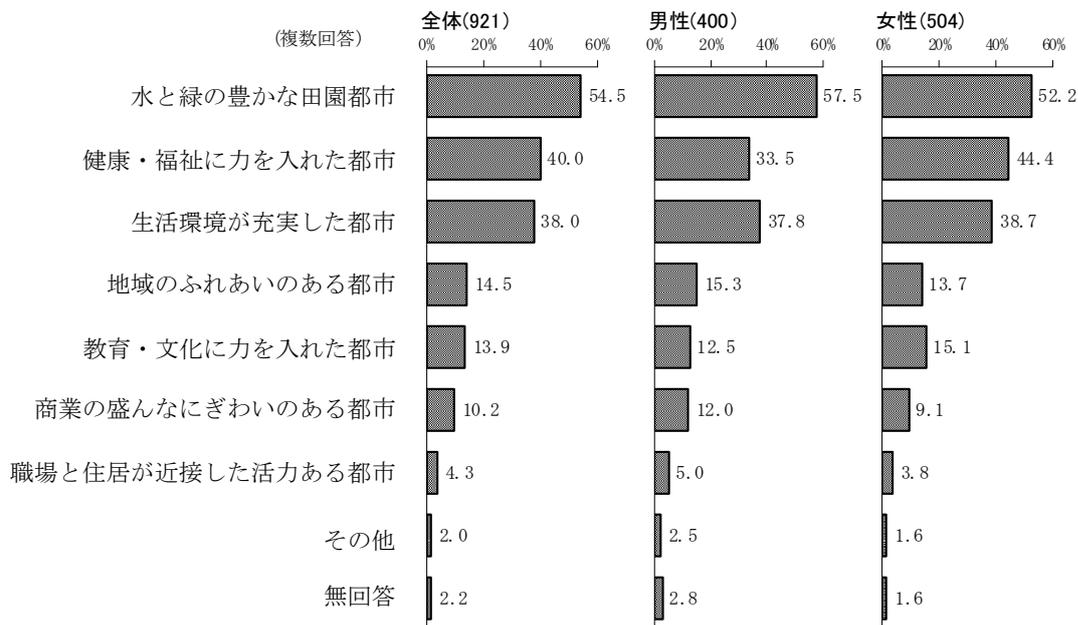
【問8. 市の将来像のイメージ】

総数=921 (複数回答)



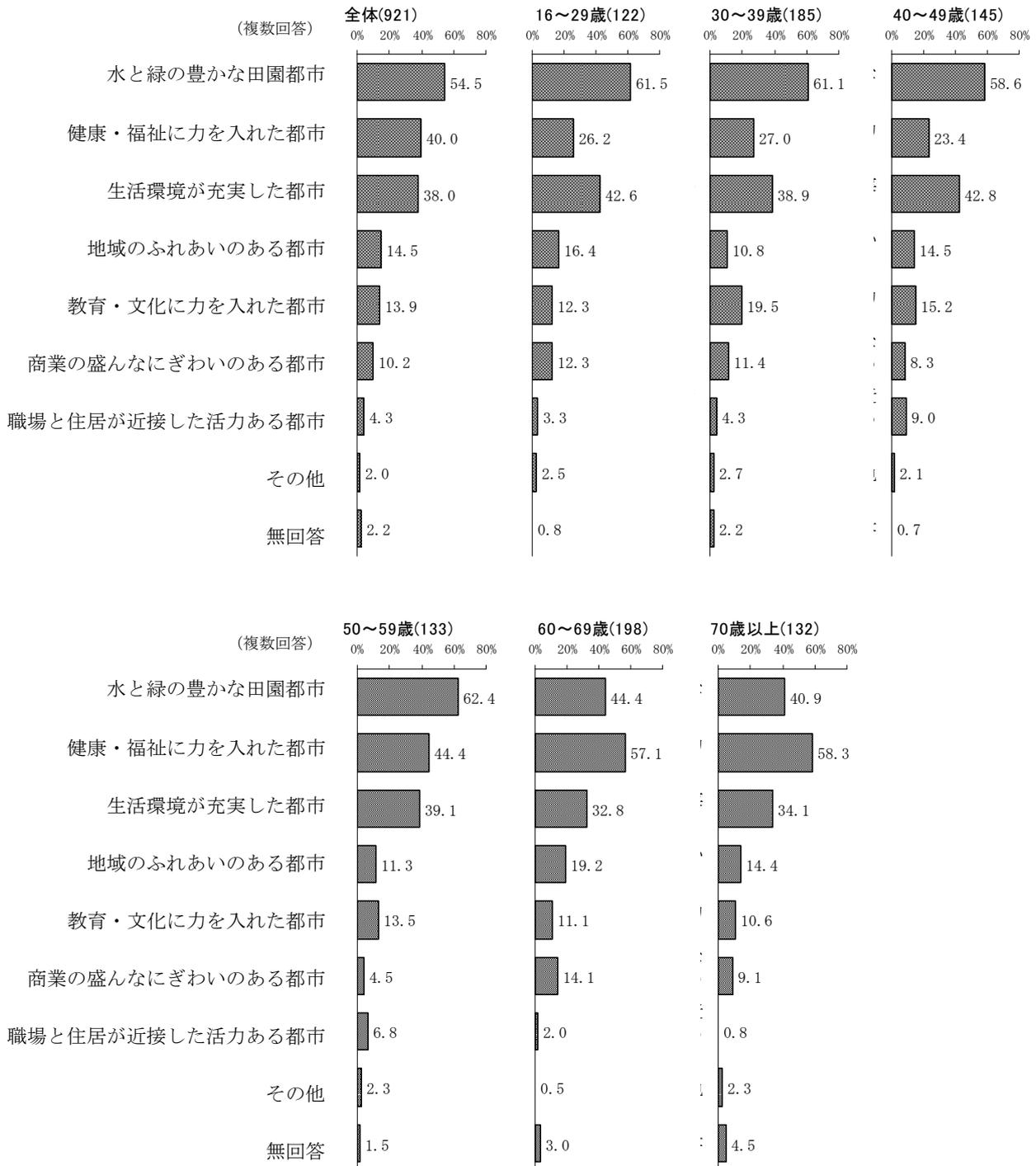
市の将来像のイメージをたずねたところ、「水と緑の豊かな田園都市」が 54.5%で最も多く、次いで「健康・福祉に力を入れた都市」が 40.0%、「生活環境が充実した都市」が 38.0%でした。

【問8. 市の将来像のイメージ（性別）】



性別では、男女とも最も多い回答は「水と緑の豊かな田園都市」ですが、女性では次に「健康・福祉に力を入れた都市」が挙げられ、男性では次に「生活環境が充実した都市」が挙げられています。

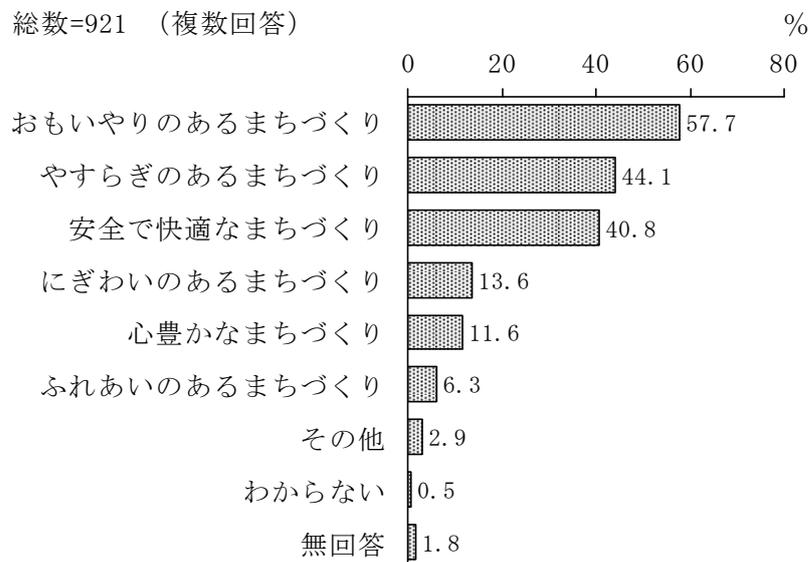
【問8. 市の将来像のイメージ（年齢別）】



年齢別では、16~49歳までの間では「水と緑の豊かな田園都市」が最も多く、次いで「生活環境が充実した都市」ですが、50~59歳では「水と緑の豊かな田園都市」に次いで「健康・福祉に力を入れた都市」となり、60歳以上では「健康・福祉に力を入れた都市」が最も多くなり、次いで「水と緑の豊かな田園都市」となります。年代によって、市に対して抱くイメージが異なる結果となりました。

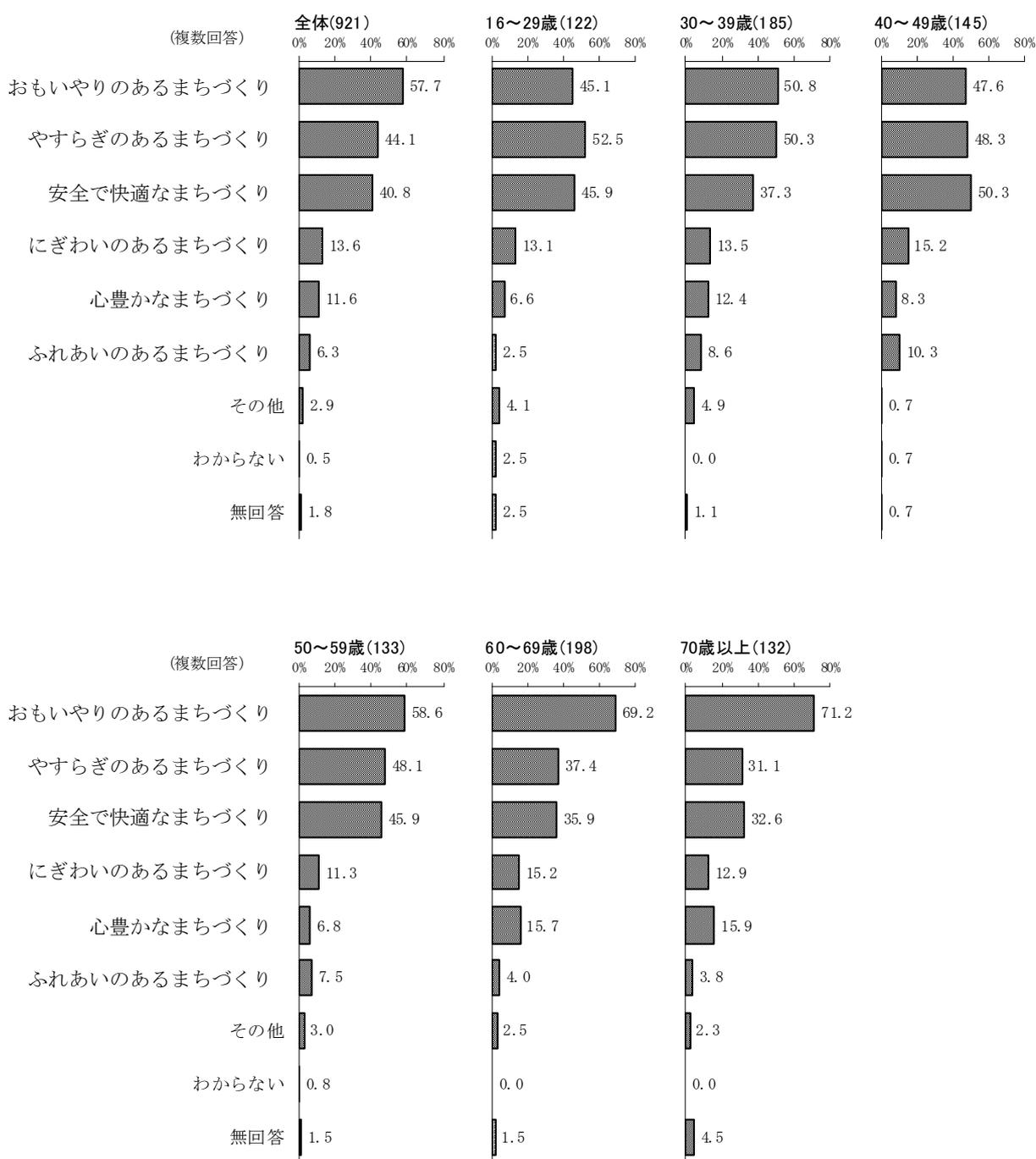
問9 稲城市はどのような都市をめざして、まちづくりを進めるべきだと思いますか。

【問9. 進めるべきまちづくり】



最も多かった回答は、「おもいやりのあるまちづくり」(57.7%)で、次いで「やすらぎのあるまちづくり」が44.1%、「安全で快適なまちづくり」が40.8%となりました。

【問9. 進めるべきまちづくり（年齢別）】



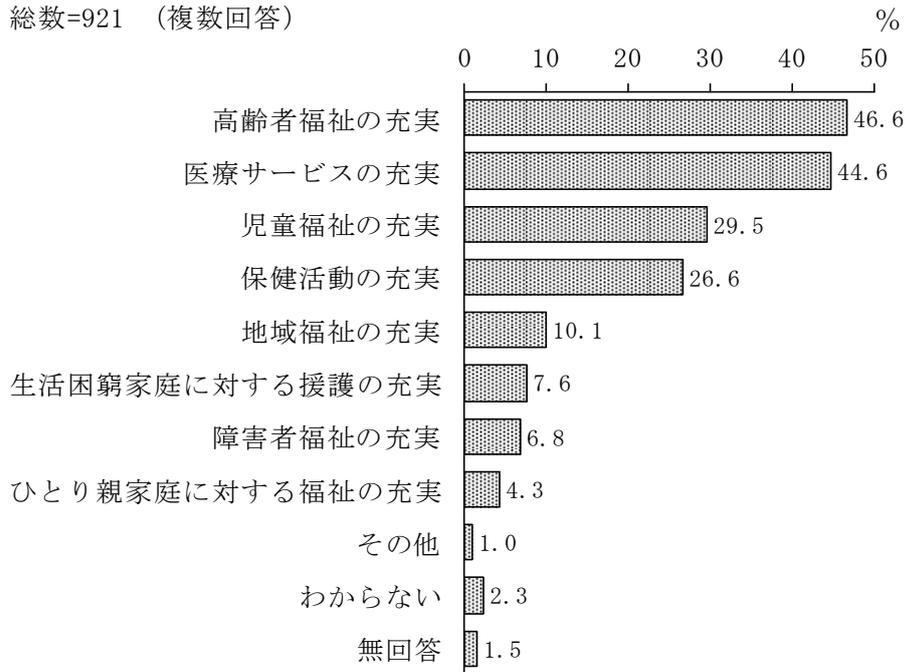
年齢別では、16~59歳では「おもしろいのあるまちづくり」「やすらぎのあるまちづくり」「安全で快適なまちづくり」の各項目で、概ね半数に達しています。60歳以上では「おもしろいのあるまちづくり」が他の項目よりも圧倒的に多くなっています。

4 今後の施策等について

問 10 健康・医療・福祉の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

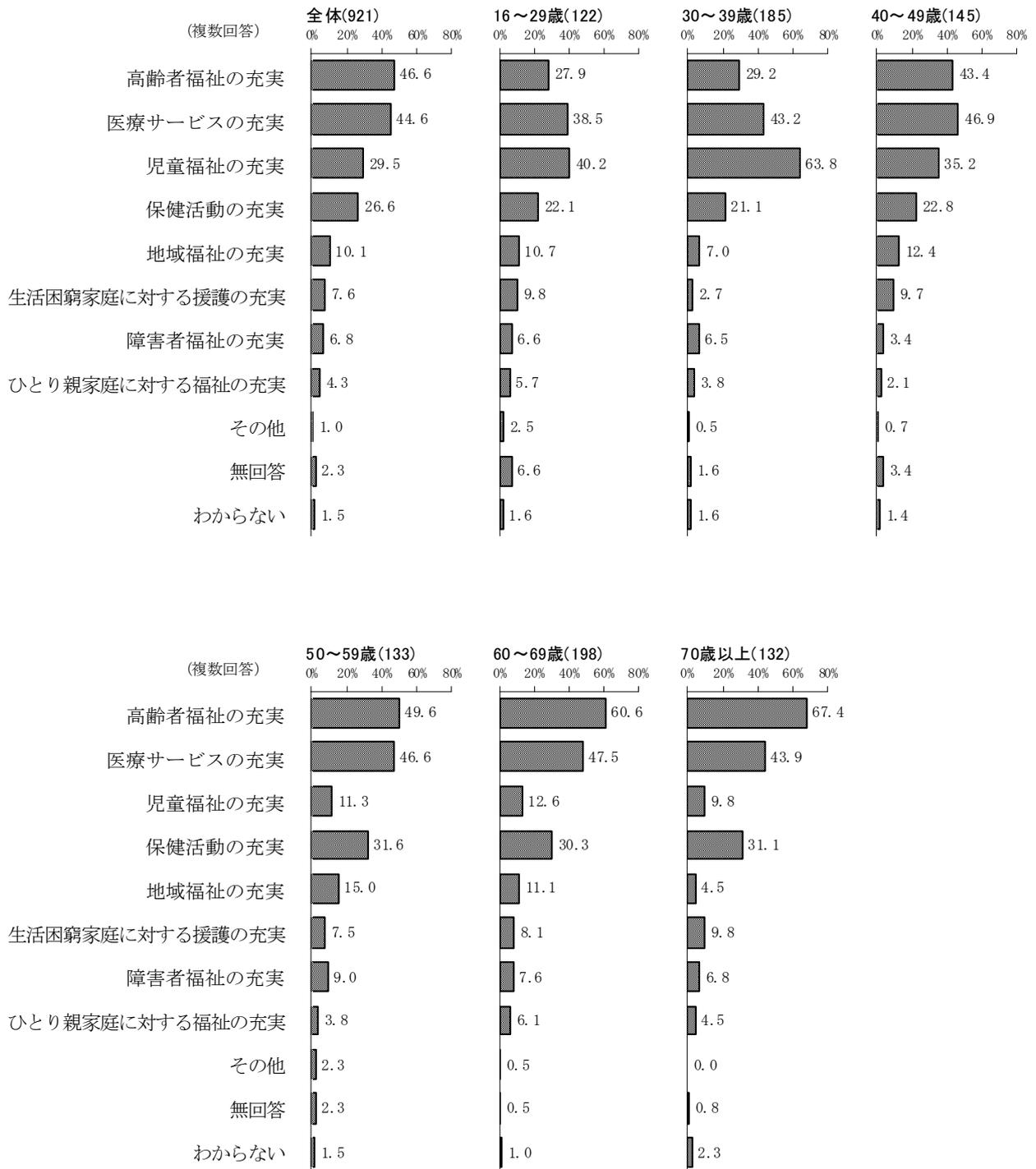
【問 10. 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策】

総数=921 (複数回答)



最も多い回答は、「高齢者福祉の充実」の46.6%で、次いで「医療サービスの充実」が44.6%でした。

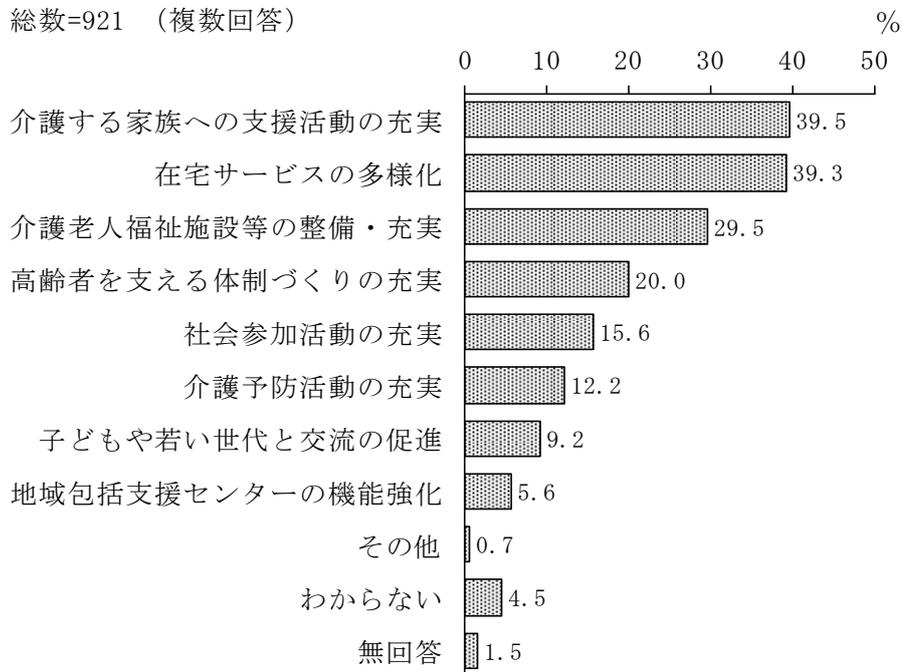
【問 10. 健康・医療・福祉について力を入れるべき施策（年齢別）】



年齢別では、16～39 歳では「児童福祉の充実」が最も多く、50 歳以上では「高齢者福祉の充実」が最も多い結果となりました。なお、「医療サービスの充実」は、すべての年代でおおむね 4 割程度となっています。

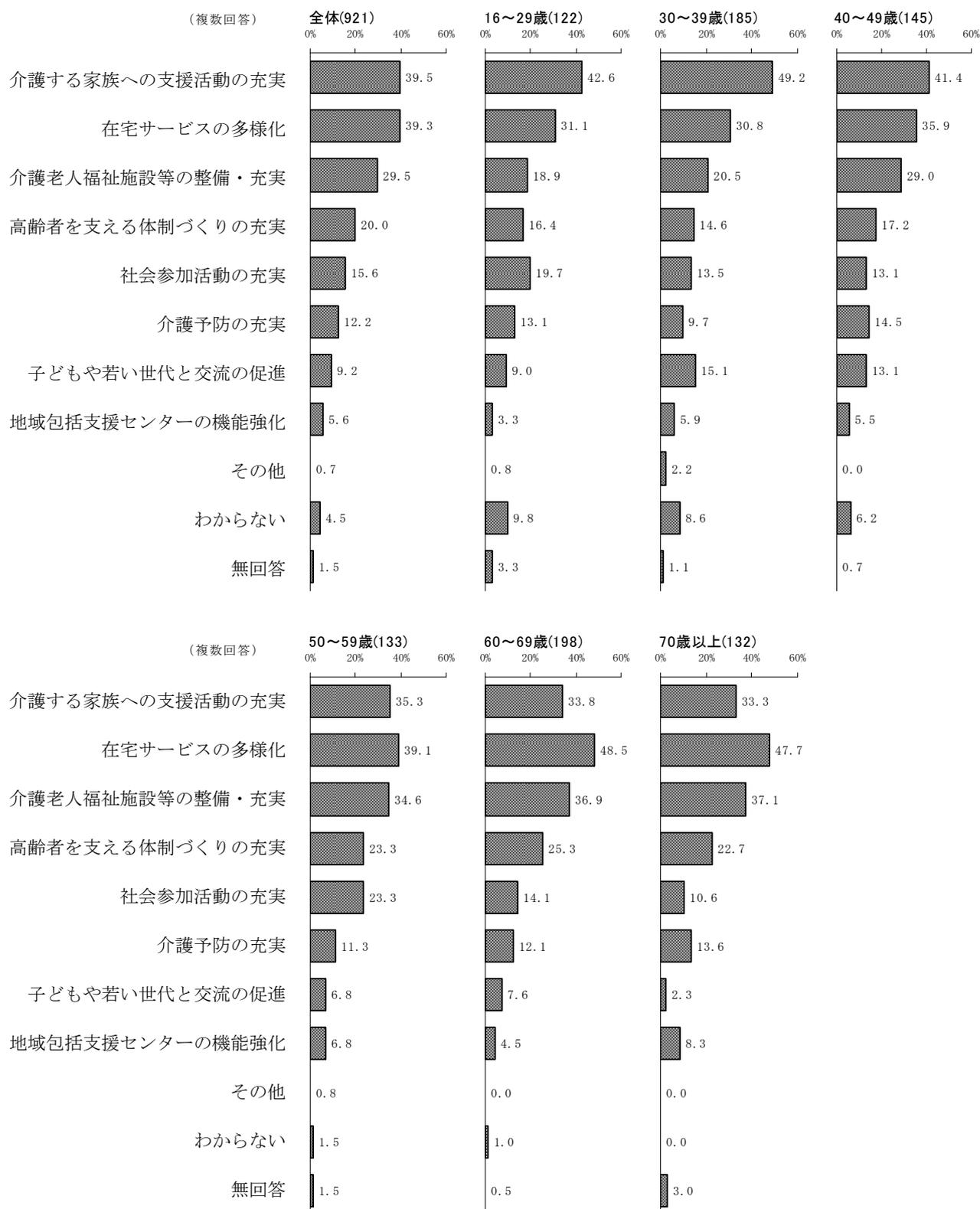
問 11 高齢者福祉について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。

【問 11. 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス】



「介護する家族への支援活動の充実」が最も多く 39.5%、次いで「在宅サービスの多様化」が 39.3%でした。

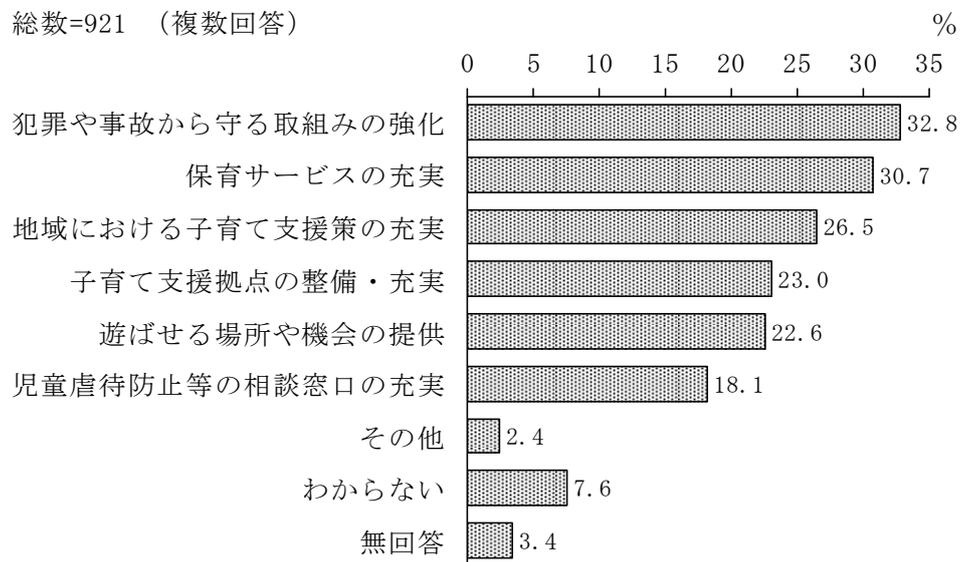
【問 11. 高齢者福祉について力を入れるべき施策やサービス（年齢別）】



年齢別では、16～49 歳では「介護する家族への支援活動の充実」が最も多く、50 歳以上では「在宅サービスの多様化」が最も多くなっています。

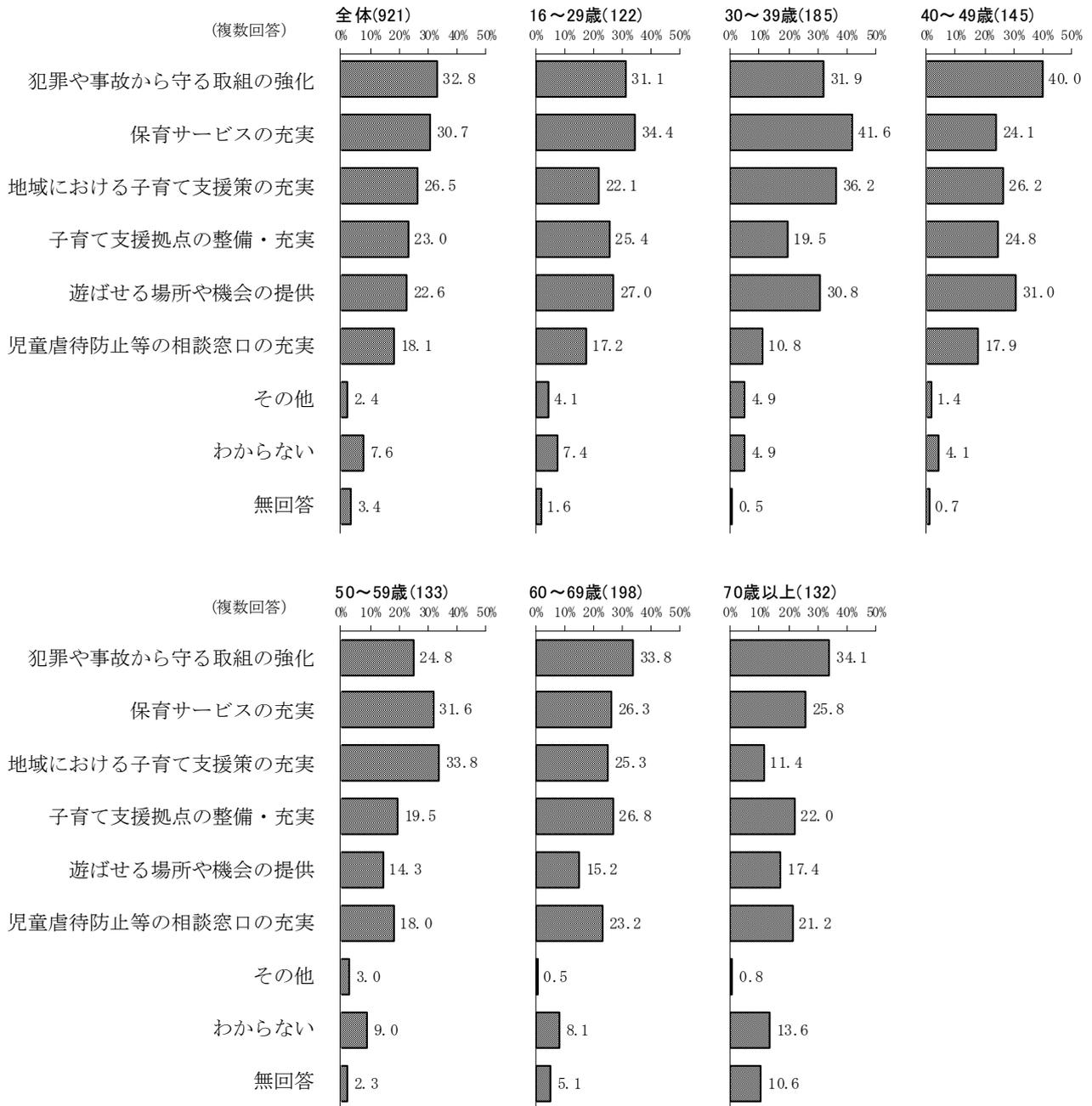
問 12 子育て支援について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。

【問 12. 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス】



「犯罪や事故から守る取組みの強化」が 32.8%と最も多く、次いで「保育サービスの充実」が 30.7%、「地域における子育て支援策の充実」が 26.5%、「子育て支援拠点の整備・充実」が 23.0%、「遊ばせる場所や機会の提供」が 22.6%でした。

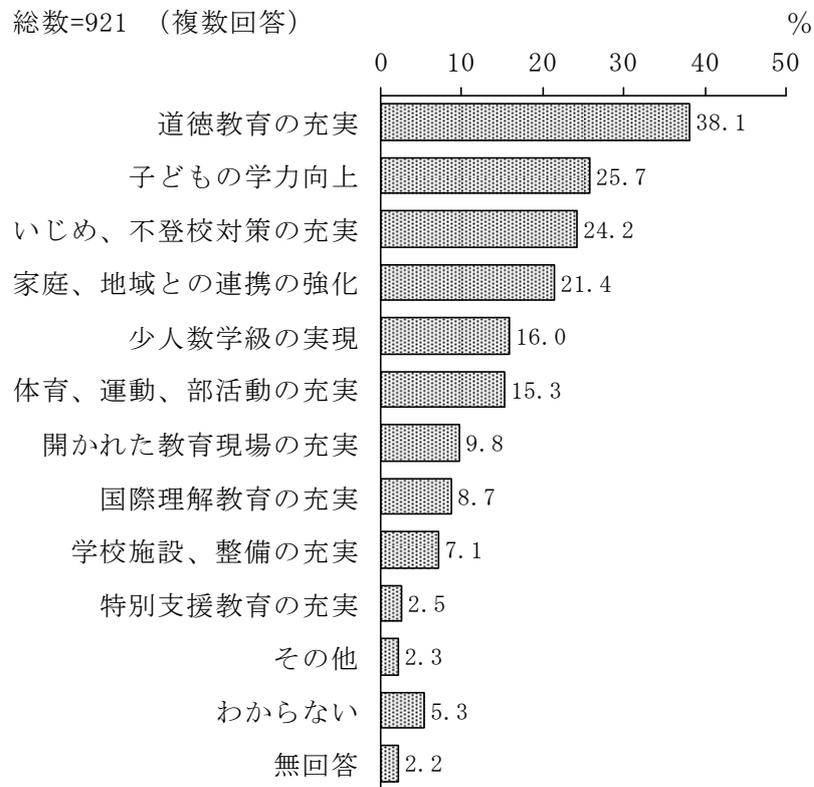
【問 12. 子育て支援について力を入れるべき施策やサービス（年齢別）】



年齢別では、40～49歳と60歳以上で「犯罪や事故から守る取組みの強化」が最も多く、16～39歳では「保育サービスの充実」が最も多い結果となりました。

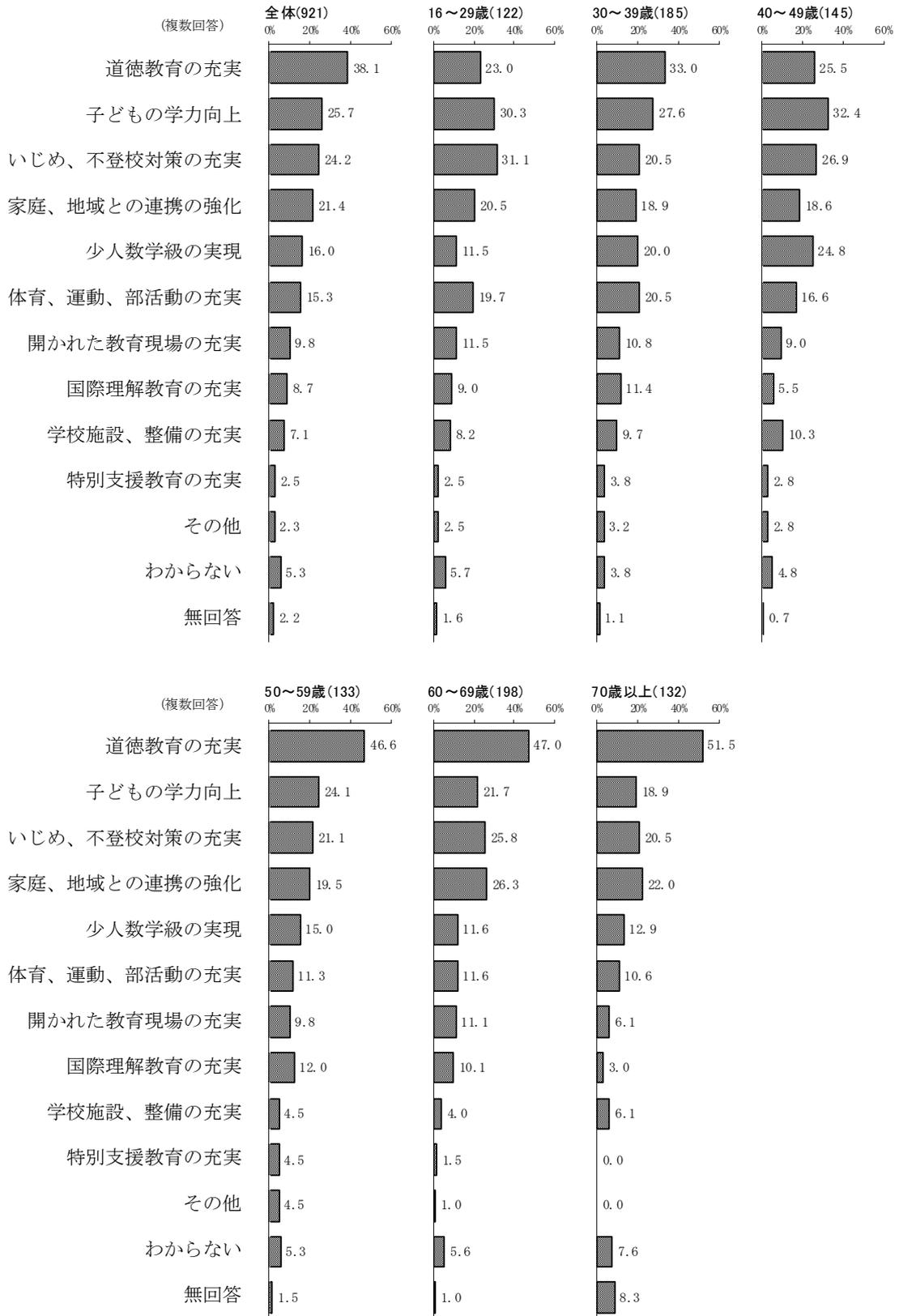
問 13 学校教育について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

【問 13. 学校教育について力を入れるべき施策】



「道徳教育の充実」が 38.1%と最も多く、次いで「子どもの学力向上」が 25.7%、「いじめ、不登校対策の充実」が 24.2%、「家庭、地域との連携の強化」が 21.4%でした。

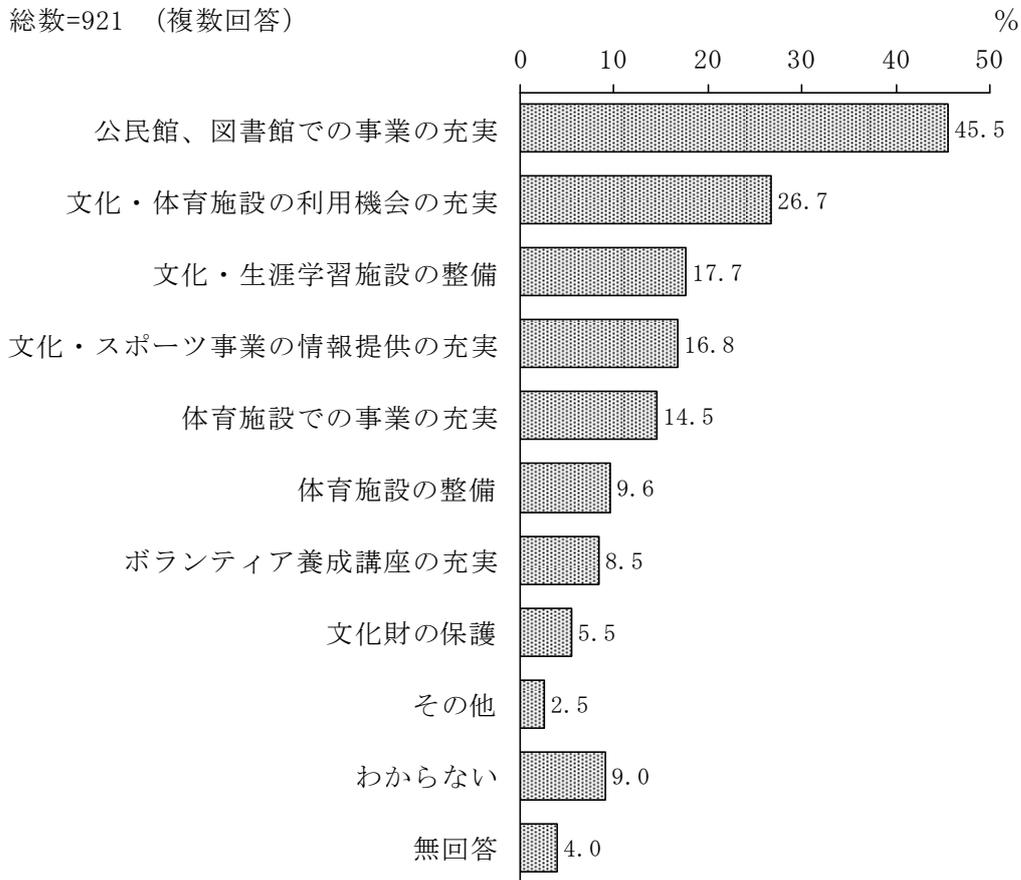
【問 13. 学校教育について力を入れるべき施策（年齢別）】



年齢別では、16～29歳で「いじめ、不登校対策の充実」が、40～49歳で「子どもの学力向上」が最も多く、50歳以上では「道徳教育の充実」が概ね半数を占めました。

問 14 生涯学習（文化・スポーツ事業）について、今後、どのような施策やサービスに力を入れたほうがよいと思いますか。

【問 14. 生涯学習について力を入れる施策やサービス】

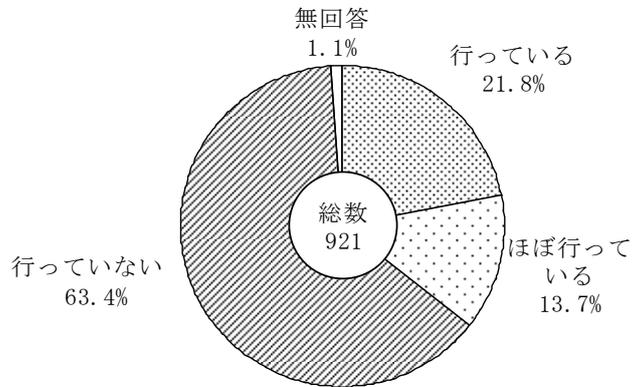


「公民館、図書館での事業の充実」が最も多く 45.5%、次いで「文化・体育施設の利用機会の充実」が 26.7%、「文化・生涯学習施設の整備」が 17.7%、「文化・スポーツ事業の情報提供の充実」が 16.8%、「体育施設での事業の充実」が 14.5%でした。

この設問では、性別、年齢別、居住地区別での大きな差はありませんでした。

問 15 あなたは、週に1回以上運動(スポーツ)を行っていますか。

【問 15. 週に1回以上の運動】



週1回以上運動を行っている人は、「行っている」21.8%と「ほぼ行っている」13.7%を合わせ35.5%で、「行っていない」人の63.4%を下回っています。

【問 15. 週に1回以上の運動(年齢別)】

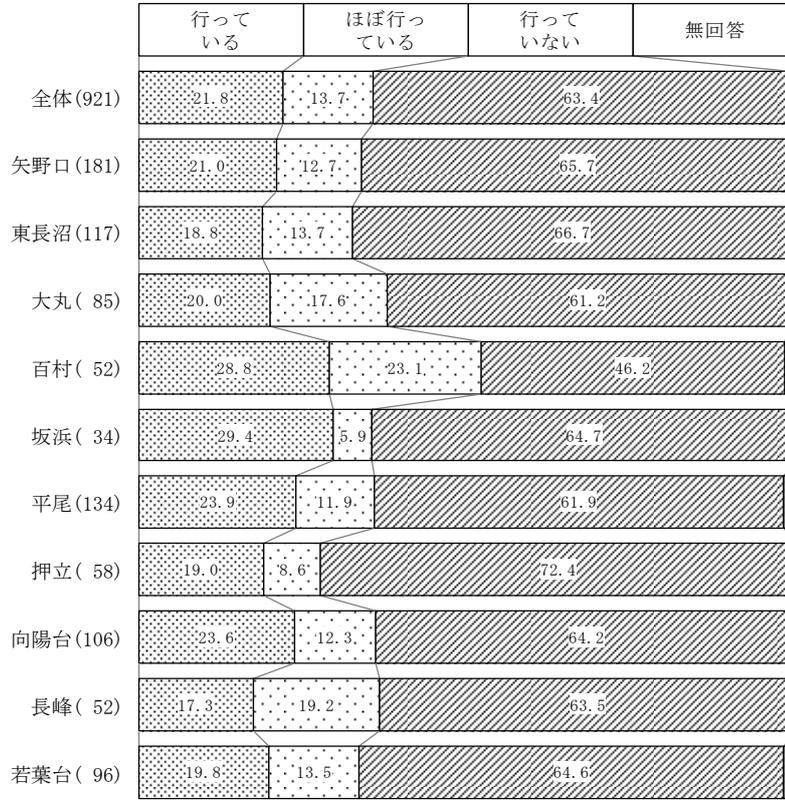
単位:%(5%未満非表示)

	行っている	ほぼ行っている	行っていない	無回答
全体(921)	21.8	13.7	63.4	
16~29歳(122)	22.1	14.8	62.3	
30~39歳(185)	16.8	12.4	70.3	
40~49歳(145)	15.9	14.5	68.3	
50~59歳(133)	21.8	15.8	61.7	
60~69歳(198)	25.8	12.6	61.1	
70歳以上(132)	28.8	12.1	56.8	

年齢別では、30~39歳で「行っていない」人が最も多く70.3%であり、「行っていない」人は40歳以降で徐々に減少しています。

【問 15. 週に1回以上の運動（地区別）】

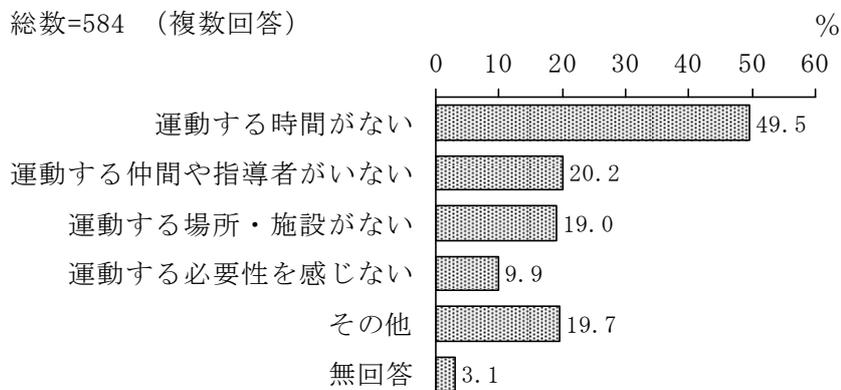
単位:%(5%未満非表示)



地域別では、押立地区で「行っていない」という回答が72.4%に達した反面、百村地区で「行っている」「ほぼ行っている」が51.9%を占めるなど、地域による差が見られました。

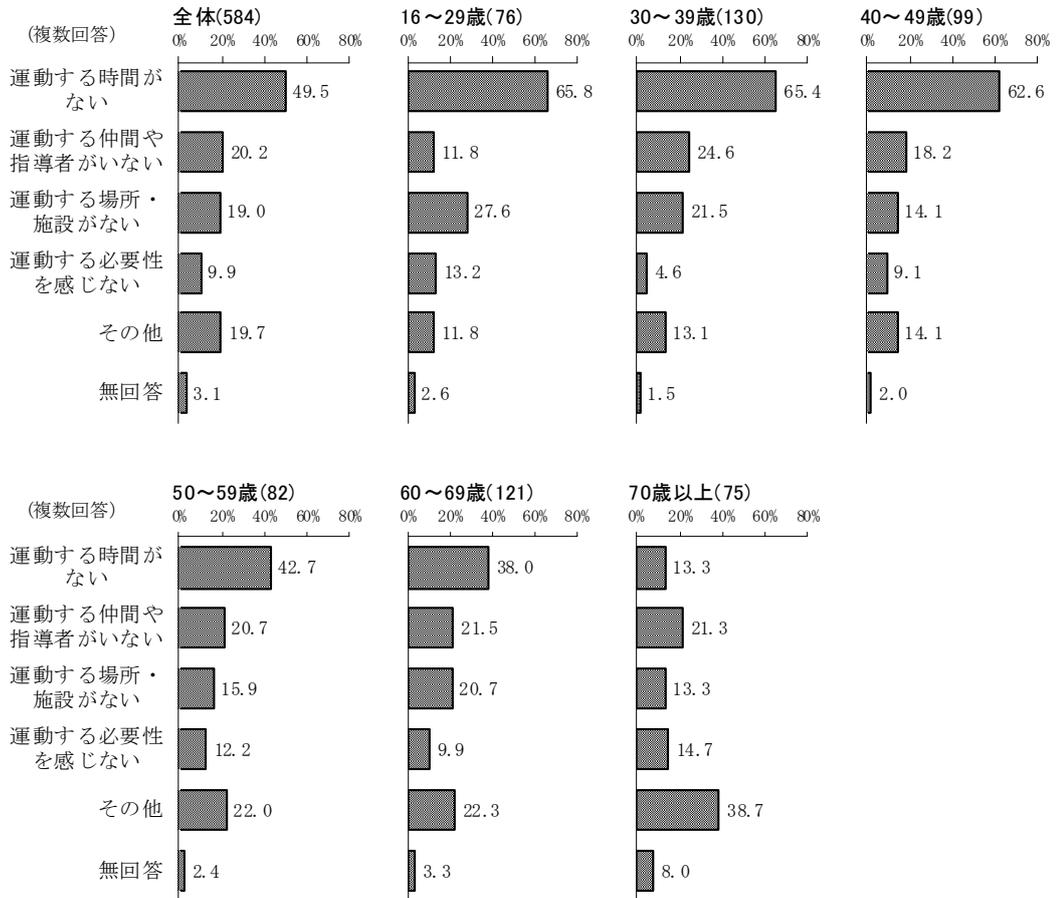
問 15-1 問 15 で3と回答した方にお聞きします。行っていない理由は何ですか。

【問 15-1. 運動を行っていない理由】



運動を行っていない理由は「運動する時間がない」が約半数を占めました。

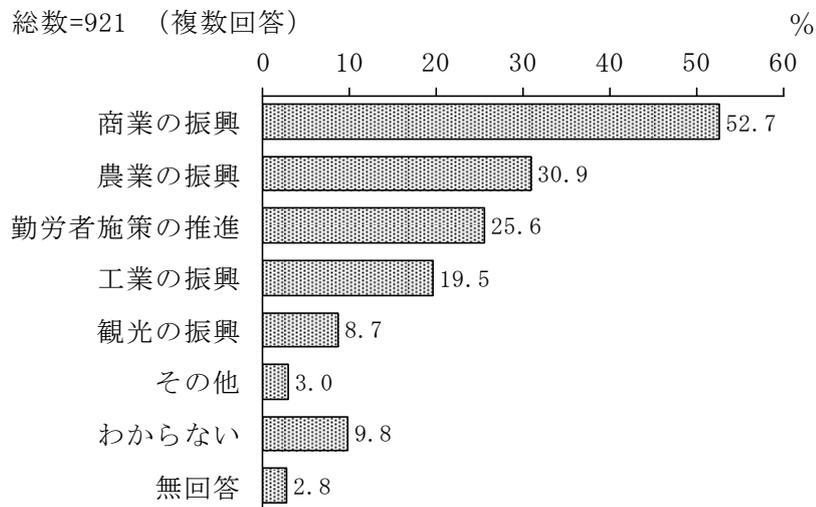
【問 15-1. 運動を行っていない理由（年齢別）】



年齢別でも、70歳以上を除いては「運動する時間がない」が最も多い理由になっています。

問 16 商工業・観光・農業の分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

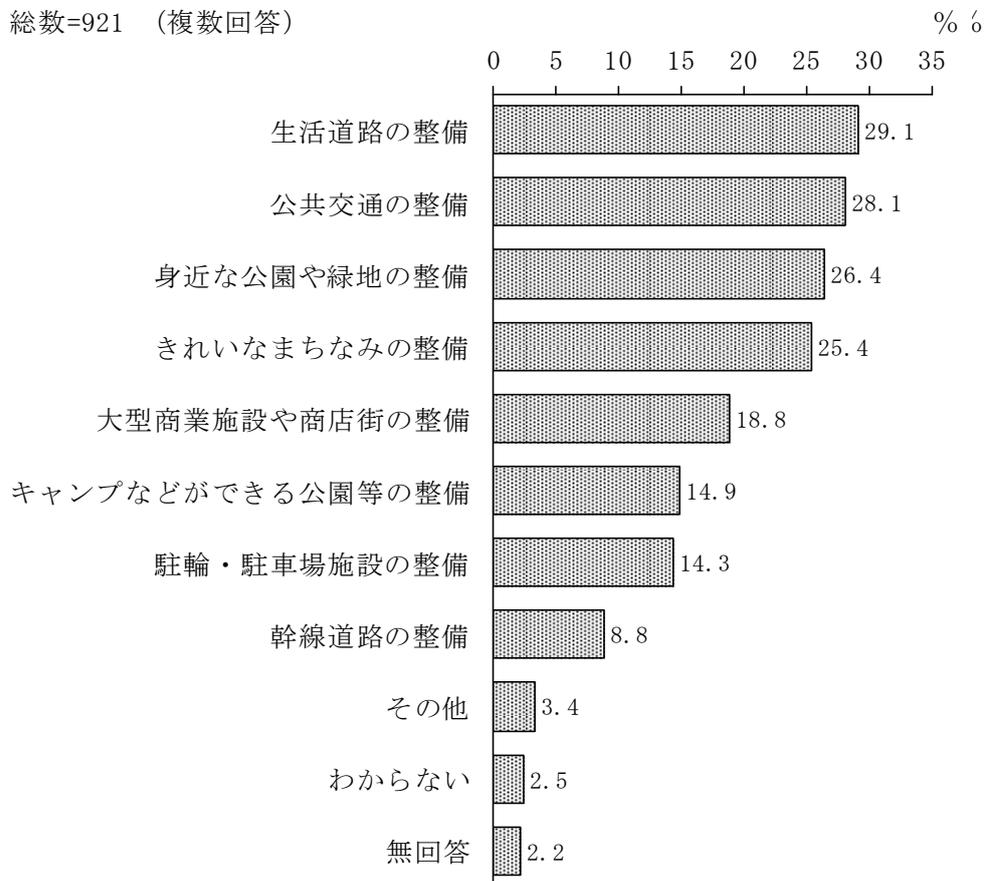
【問 16. 商工業・観光・農業について力を入れるべきこと】



「商業の振興」が最も多く 52.7%、次いで「農業の振興」が 30.9%、「勤労者施策の推進」が 25.6%、「工業の振興」が 19.5%でした。

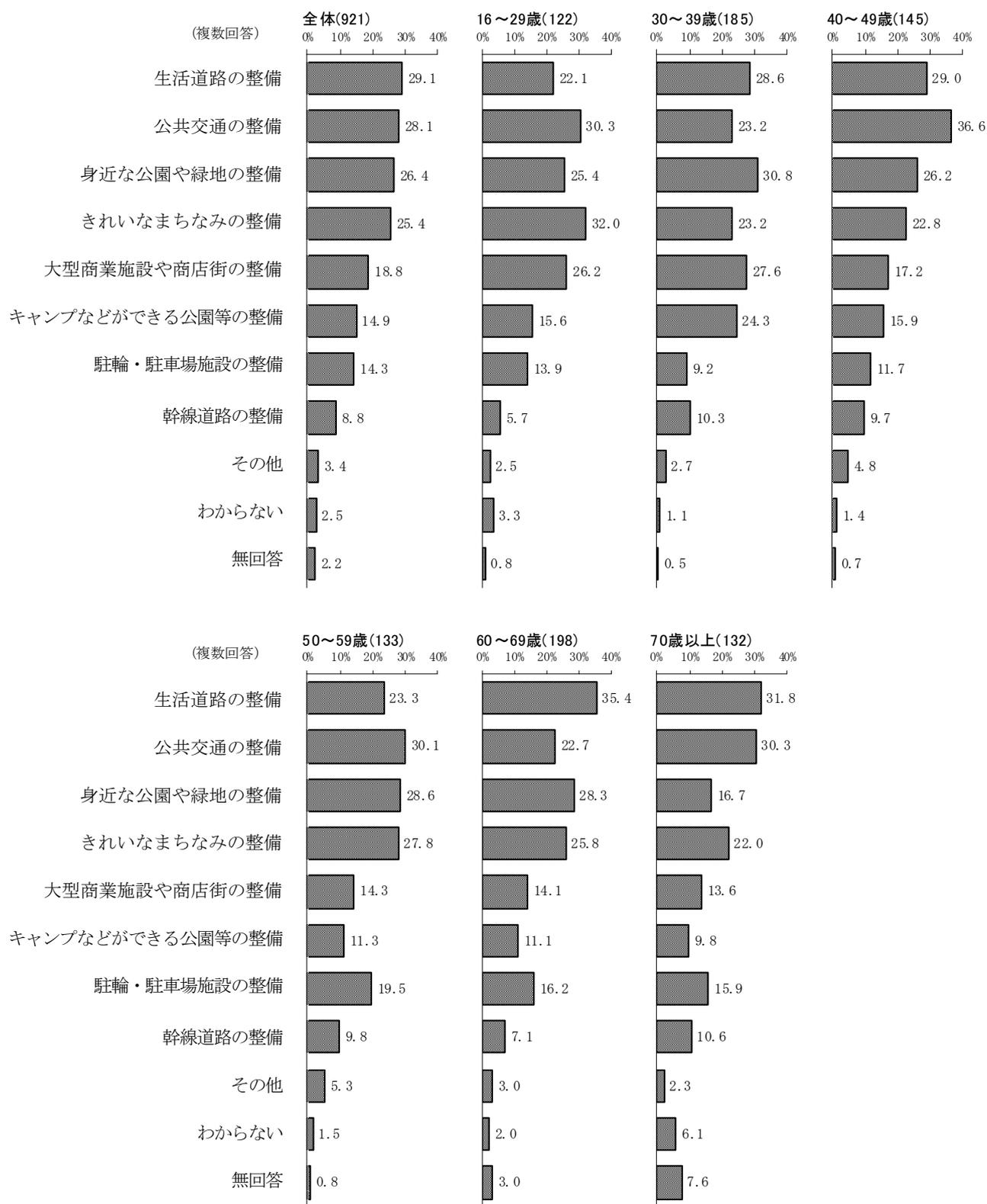
問 17 都市基盤について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。次の中から選んでください。

【問 17. 都市基盤について力を入れるべきこと】



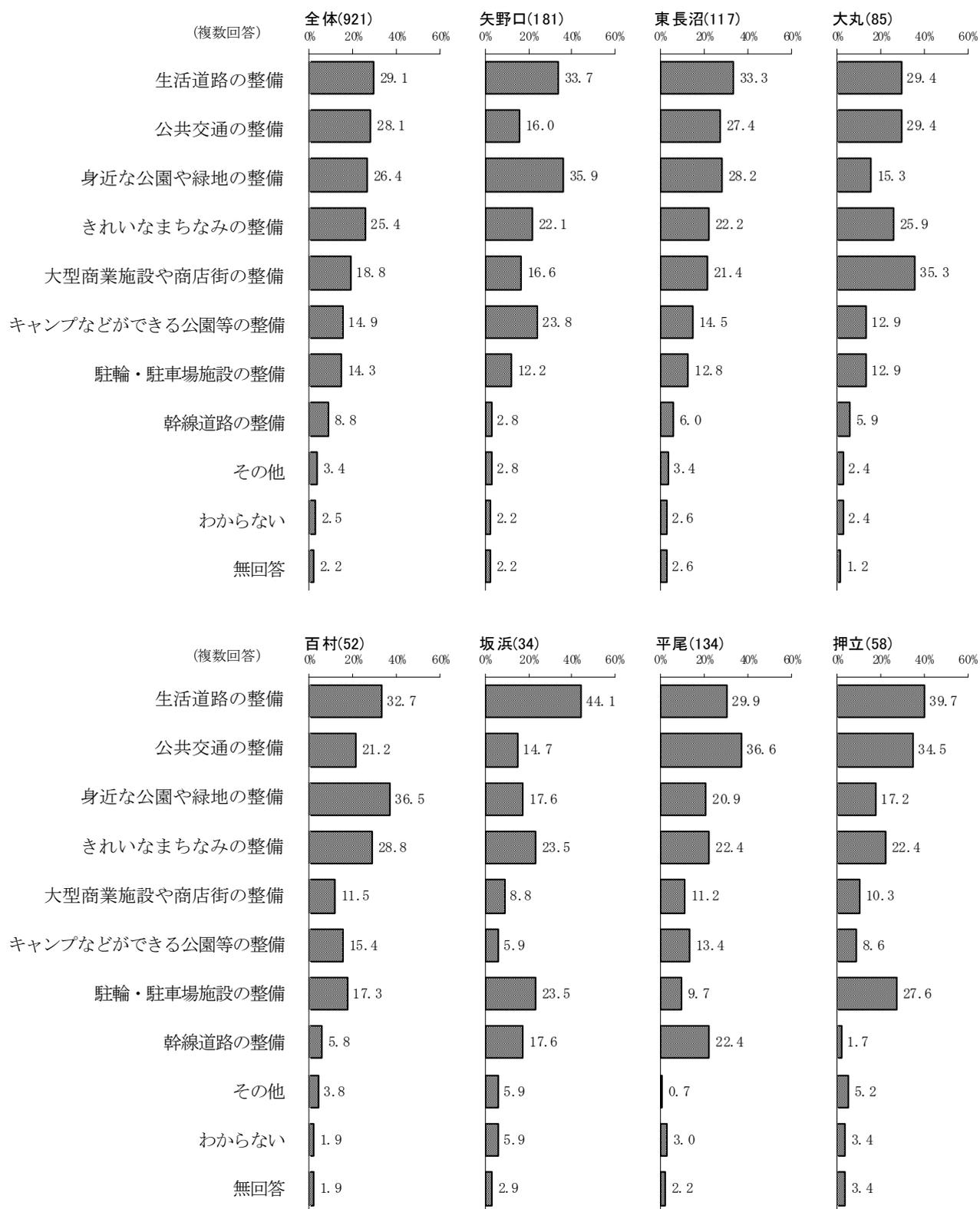
「生活道路の整備」が 29.1%と最も多く、次いで「公共交通の整備」が 28.1%、「身近な公園や緑地の整備」が 26.4%、「きれいなまちなみの整備」が 25.4%でした。

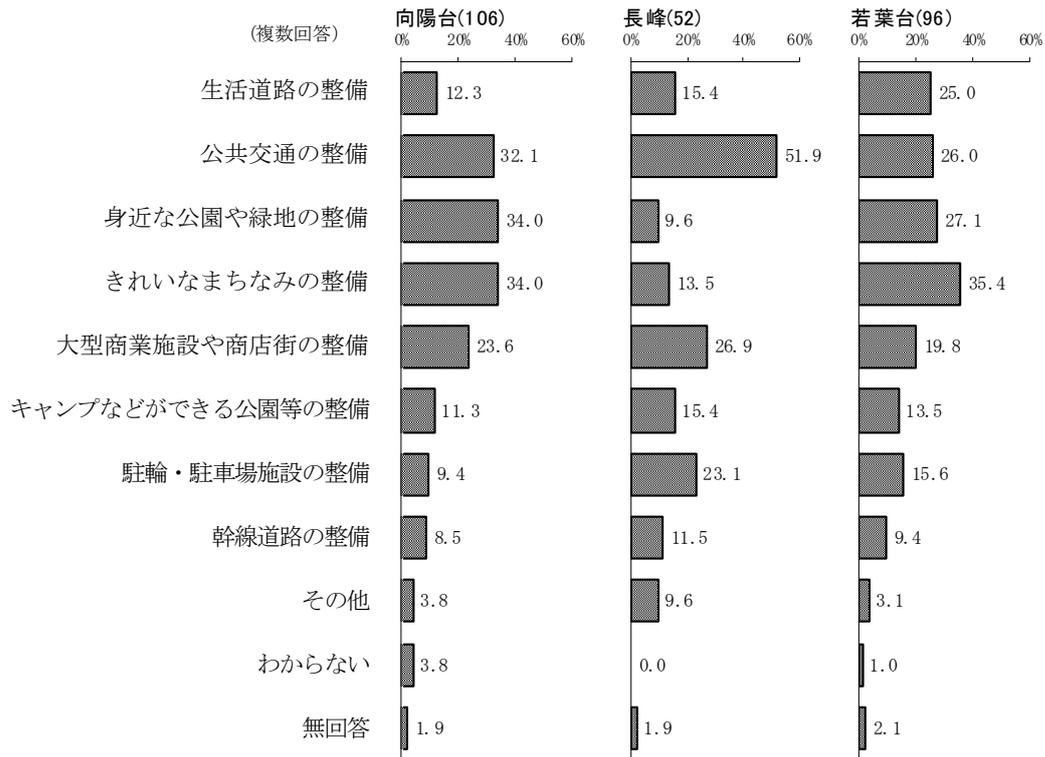
【問 17. 都市基盤について力を入れるべきこと（年齢別）】



年齢別で最も多い回答は、16～29歳では「きれいなまちなみの整備」、30～39歳では「身近な公園や緑地の整備」、40～59歳では「公共交通の整備」、60歳以上では「生活道路の整備」と、重視している項目が年代別で異なりました。

【問 17. 都市基盤について力を入れるべきこと（地区別）】

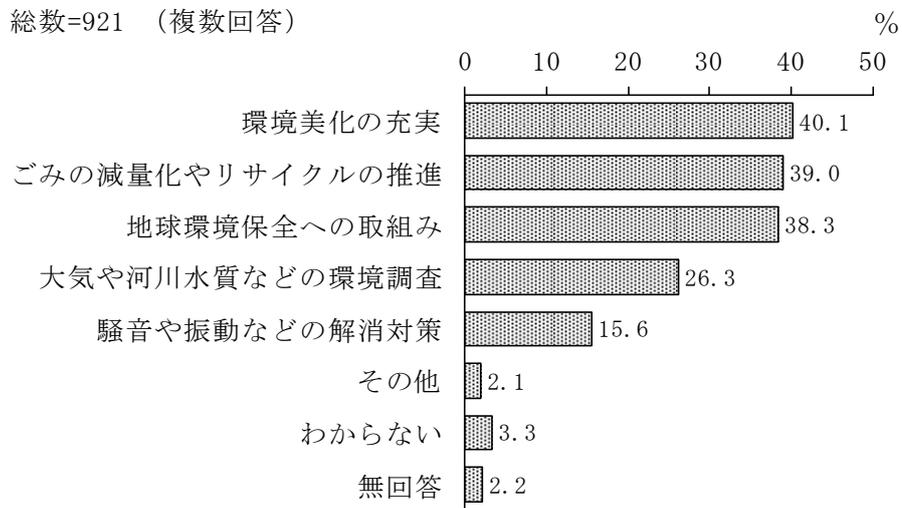




地区別では、「生活道路の整備」が最も多かったのが東長沼、坂浜、押立の各地区、「公共交通の整備」は平尾、長峰の各地区、「身近な公園や緑地の整備」は矢野口、百村の各地区、「きれいなまちなみの整備」は若葉台地区、「大型商業施設や商店街の整備」が大丸地区と、地区によっても重視している項目に差がでました。特に長峰地区では「公共交通の整備」が過半数を占めています。

問 18 生活環境について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

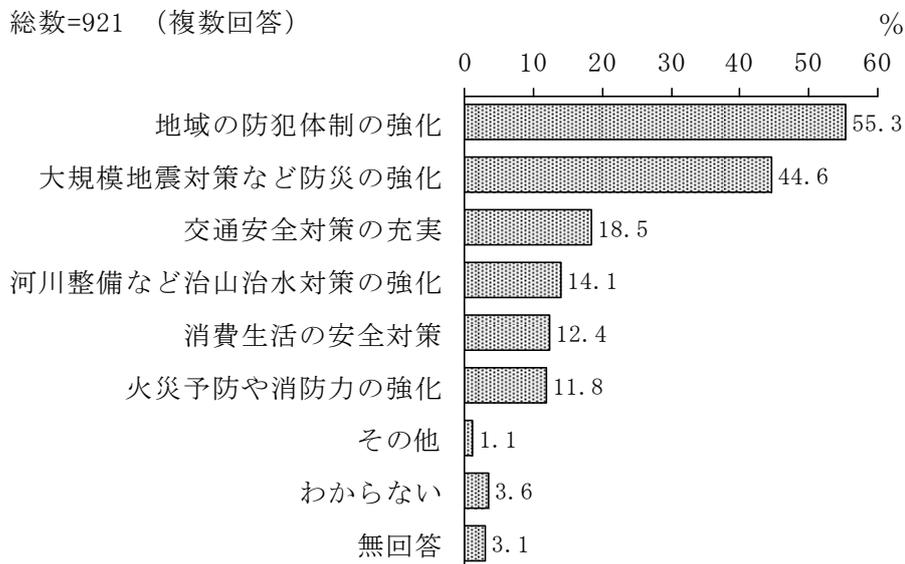
【問 18. 生活環境について力を入れるべきこと】



「環境美化の充実」が 40.1%で最も多く、次いで「ごみの減量化やリサイクルの推進」が 39.0%「地球環境保全への取組み」が 38.3%でした。

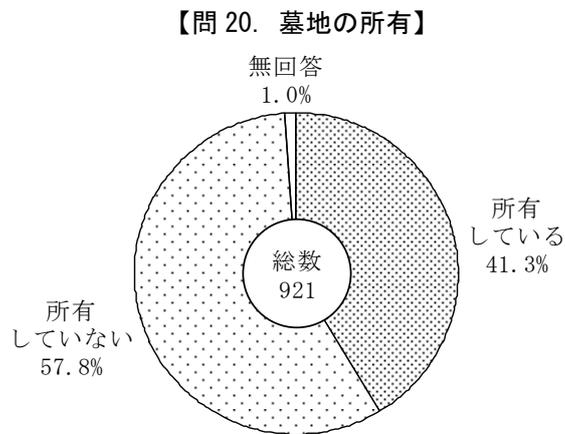
問 19 防災や防犯などの分野について、今後、どのような施策に力を入れたほうがよいと思いますか。

【問 19. 防災や防犯について力を入れるべきこと】



「地域の防犯体制の強化」が 55.3%と最も多く、次いで「大規模地震対策など防災の強化」が 44.6%でした。

問 20 あなた（家族）は墓地を所有していますか。



「所有していない」(57.8%)が「所有している」(41.3%)を上回りました。

【問 20. 墓地の所有（年齢別）】

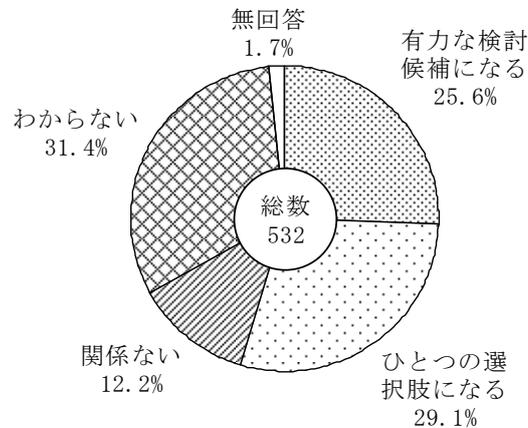
単位:%(5%未満非表示)

	所有している	所有していない	無回答
全体(921)	41.3	57.8	
16～29歳(122)	40.2	59.0	
30～39歳(185)	29.7	70.3	
40～49歳(145)	27.6	71.0	
50～59歳(133)	40.6	59.4	
60～69歳(198)	49.5	49.5	
70歳以上(132)	61.4	35.6	

年齢別では、70歳以上を除き、所有している人が半数を下回っています。

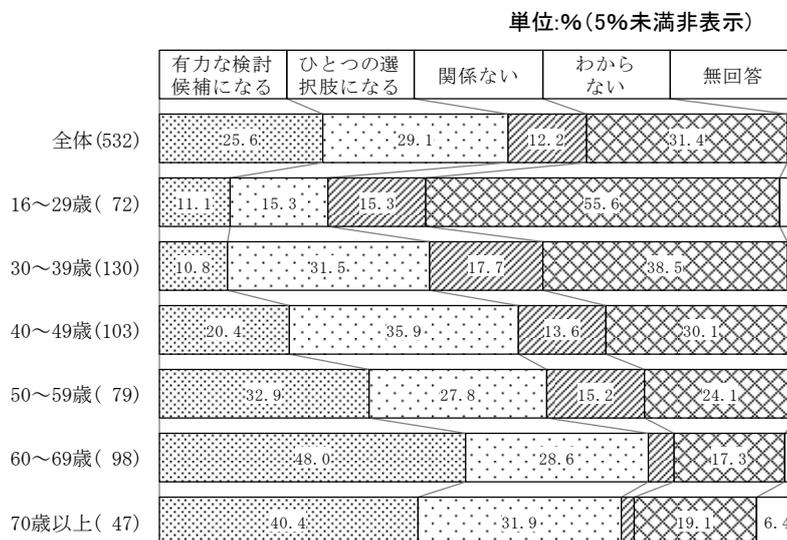
問 21 今後、墓地の取得を検討する上で、市民墓地があれば検討候補になりますか。

【問 21. 墓地の取得を検討する上での市民墓地について】



墓地を所有していないと回答した人に、市民墓地が検討候補になるかをたずねたところ、「有力な検討候補になる」が 25.6%、「ひとつの選択肢になる」が 29.1%でした。

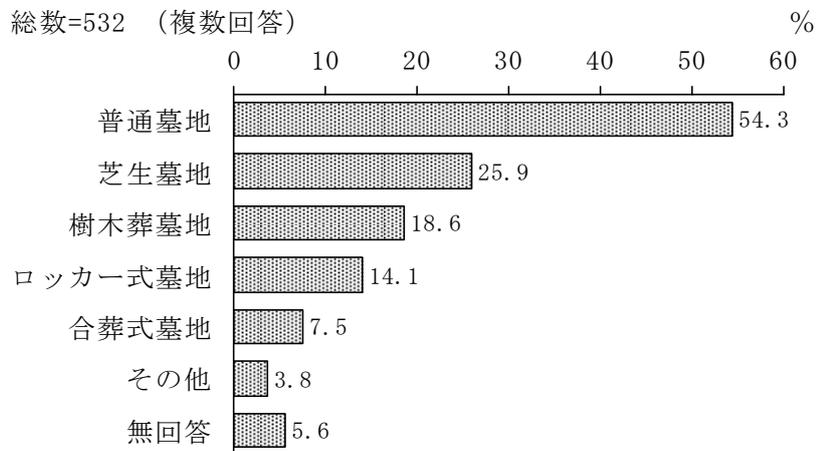
【問 21. 墓地の取得を検討する上での市民墓地について (年齢別)】



年齢別では、60～69歳で「有力な検討候補になる」と回答した人が半数近くに達しています。

問 22 市民墓地のあり方としては、どのようなものが適切だと思いますか。

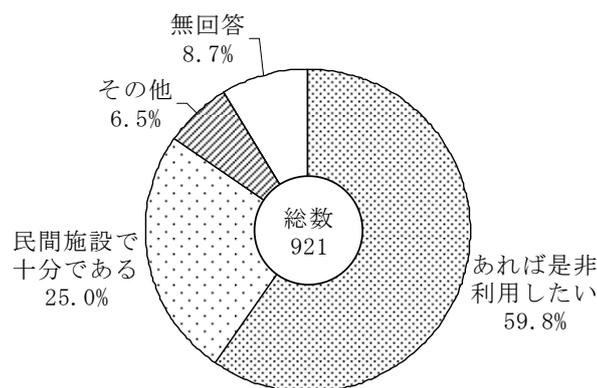
【問 22. 市民墓地のあり方として適切だと思うこと】



墓地を所有していないと回答した人に、市民墓地のあり方についてたずねたところ、「普通墓地」が 54.3%で最も多く、次いで「芝生墓地」が 25.9%、「樹木葬墓地」が 18.6%、「ロッカー式墓地」が 14.1%でした。

問 23 公営のメモリアルホールについてどう思いますか。

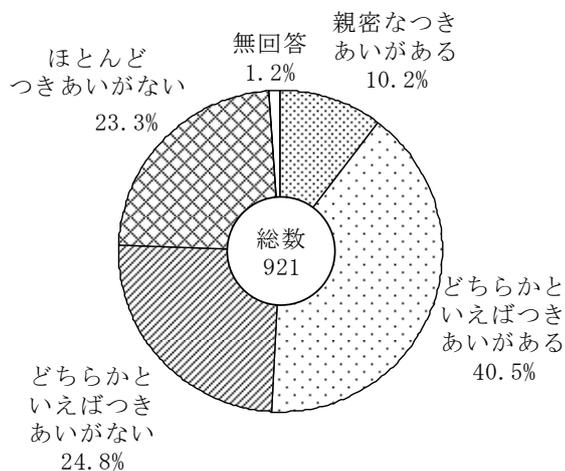
【問 23. 公営のメモリアルホールについて】



「あれば是非利用したい」が 59.8%、「民間施設で十分である」が 25.0%でした。

問 24 あなたのご家族では、ご近所とどの程度のおつきあいをされていますか。

【問 24. 近所づきあいの程度】



近所づきあいについてたずねたところ「親密なつきあいがある」は10.2%、「どちらかといえづきあいがある」が40.5%、「どちらかといえづきあいが無い」が24.8%、「ほとんどつきあいが無い」が23.3%でした。

【問 24. 近所づきあいの程度（年齢別）】

単位:% (5%未満非表示)

	親密なつきあいがある	どちらかといえづきあいがある	どちらかといえづきあいが無い	ほとんどつきあいが無い	無回答
全体(921)	10.2	40.5	24.8	23.3	
16～29歳(122)	10.7	27.9	23.0	38.5	
30～39歳(185)	12.4	32.4	17.3	37.3	
40～49歳(145)	9.0	40.0	28.3	22.1	
50～59歳(133)	6.0	41.4	32.3	20.3	
60～69歳(198)	11.6	46.5	28.8	12.6	
70歳以上(132)	9.8	53.8	19.7	10.6	6.1

年齢別では、60歳以上では「親密なつきあいがある」と「どちらかといえづきあいがある」の合計が半数を上回っていますが、その他の年代では、「どちらかといえづきあいが無い」と「ほとんどつきあいが無い」の合計の方が上回っています。

【問 24. 近所づきあいの程度（地区別）】

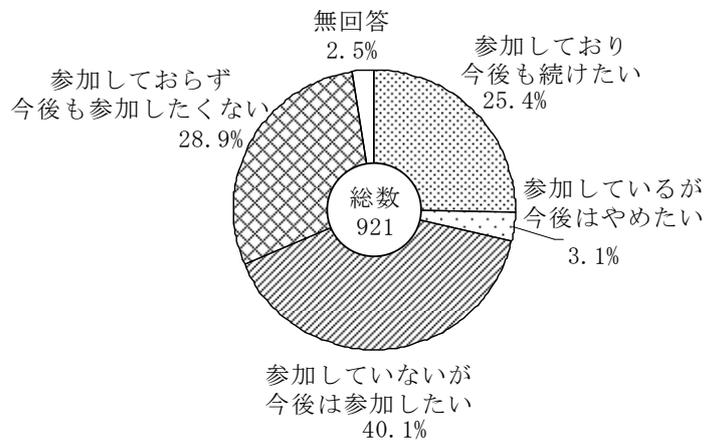
単位:%(5%未満非表示)

	親密なつきあ いがある	どちらかといえ ばつきあがある	どちらかといえ ばつきあがない	ほとんどつき あがない	無回答
全体(921)	10.2	40.5	24.8	23.3	
矢野口(181)	11.6	42.0	21.5	24.9	
東長沼(117)	9.4	37.6	25.6	27.4	
大丸(85)	9.4	38.8	23.5	25.9	
百村(52)	5.8	42.3	28.8	21.2	
坂浜(34)	8.8	67.6		3.8	14.7
平尾(134)	10.4	43.3	25.4	19.4	
押立(58)	10.3	44.8	24.1	13.8	6.9
向陽台(106)	11.3	35.8	29.2	23.6	
長峰(52)	5.8	38.5	30.8	23.1	
若葉台(96)	13.5	31.3	24.0	30.2	

地区別では、坂浜地区で「親密なつきあがある」と「どちらかといえ
ばつきあがある」の合計が全体の4分の3に達している他は、おおむね半数程度にとどまっ
ています。

問 25 あなたは、地域の団体や組織（自治会、婦人会、老人クラブ、PTA、スポーツクラブ、同好会など）に参加したいと考えていますか。

【問 25. 地域団体や組織への参加意向】



地域団体等の参加意向では、「参加しており今後も続けたい」が 25.4%、「参加していないが今後は参加したい」が 40.1%、「参加しておらず今後も参加したくない」が 28.9%でした。

【問 25. 地域団体や組織への参加意向（年齢別）】

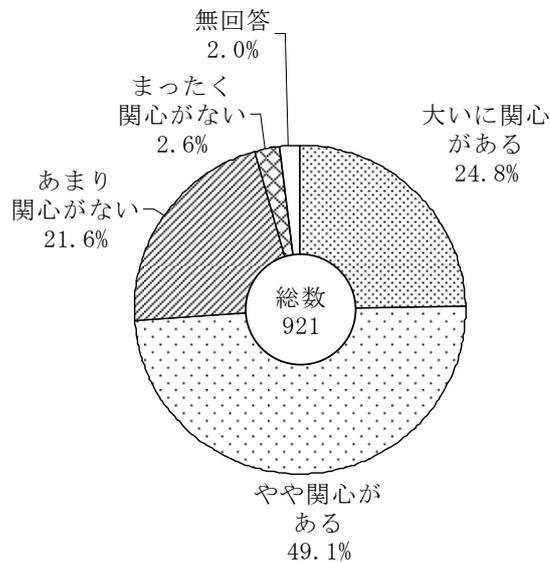
単位: % (5%未満非表示)

	参加しており今後も続けたい	参加しているが今後はやめたい	参加していないが今後は参加したい	参加しておらず今後も参加したくない	無回答
全体 (921)	25.4	3.1	40.1	28.9	2.5
16～29歳 (122)	5.7	37.7	54.9		
30～39歳 (185)	18.9	47.0	31.9		
40～49歳 (145)	29.7	5.5	36.6	24.8	
50～59歳 (133)	29.3	42.1	26.3		
60～69歳 (198)	28.3	46.0	18.7		
70歳以上 (132)	39.4	25.8	23.5	7.6	

年齢別では、16～29歳で「参加しておらず、今後も参加したくない」が 54.9%を占めています。

問 26 あなたは稲城市の行政施策にどの程度関心がありますか。

【問 26. 行政施策への関心度】



行政施策の関心について、「大いに関心がある」が24.8%、「やや関心がある」が49.1%、「あまり関心がない」が21.6%、「まったく関心がない」が2.6%でした。

【問 26. 行政施策への関心度（年齢別）】

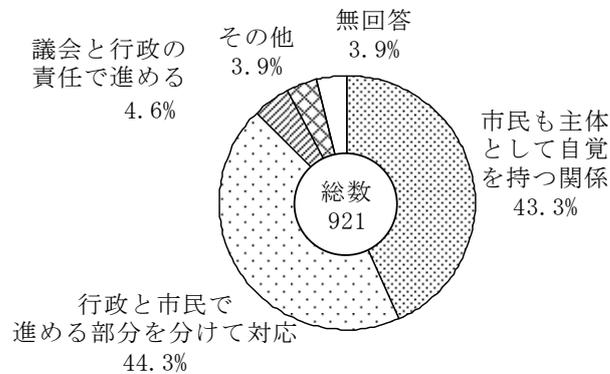
単位:%(5%未満非表示)

	大いに関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答
全体(921)	24.8	49.1	21.6	2.6	2.0
16～29歳(122)	9.8	40.2	39.3	9.8	0.9
30～39歳(185)	24.9	50.8	21.1	2.6	0.8
40～49歳(145)	22.8	55.9	18.6	2.6	0.1
50～59歳(133)	23.3	49.6	24.1	2.6	0.4
60～69歳(198)	33.3	49.5	14.1	2.6	0.5
70歳以上(132)	29.5	44.7	18.9	5.3	0.1

年齢別で見ると、「大いに関心がある」「やや関心がある」をあわせた数値は、最も低い16～29歳でも半数に達しています。

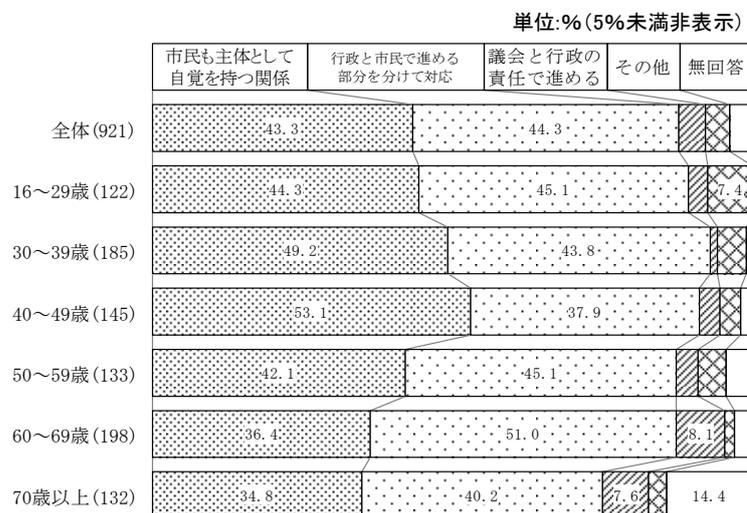
問 27 あなたは、市民と行政との協働（パートナーシップ）により、まちづくりを進めることについて、どのようにお考えですか。

【問 27. 市民と行政との協働によりまちづくりを進めることについて】



市民と行政との協働によりまちづくりを進めることについてたずねたところ、「市民も主体として自覚を持つ関係」が 43.3%、「行政と市民で進める部分を分けて対応する」が 44.3%でした。

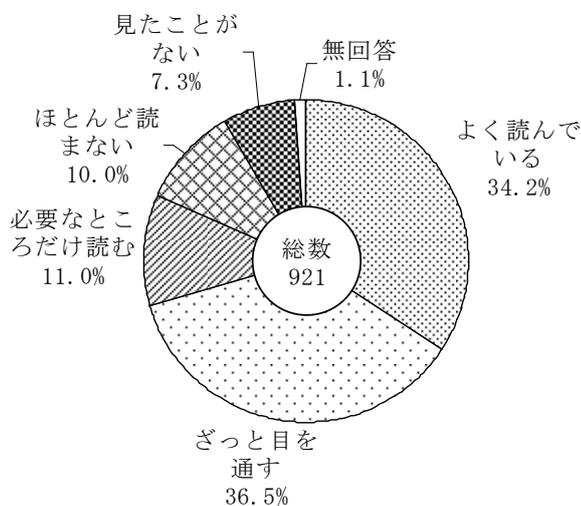
【問 27. 市民と行政との協働によりまちづくりを進めることについて（年齢別）】



年齢別では、「市民も主体として自覚を持つ関係」は 30～49 歳で多くなっています。

問 28 市では、「広報いなぎ」を毎月 1 日と 15 日に発行していますが、あなたはどの程度読んでいますか。

【問 28. 広報いなぎの精読度】



広報いなぎについて、「よく読んでいる」が 34.2%、「ざっと目を通す」が 36.5%でした。

【問 28. 広報いなぎの精読度（年齢別）】

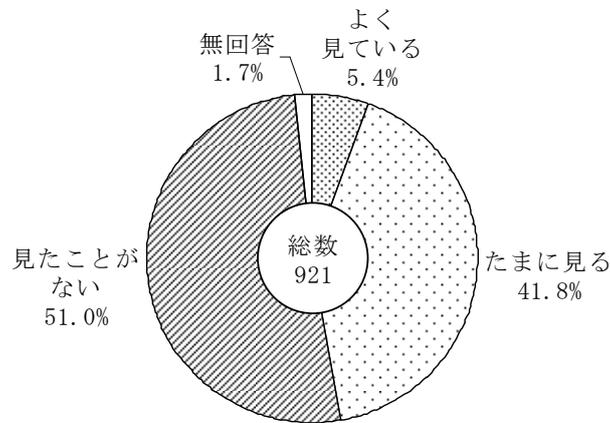
単位:%(5%未満非表示)

	よく読んでいる	ざっと目を通す	必要などろだけ読む	ほとんど読まない	見たことがない	無回答
全体 (921)	34.2	36.5	11.0	10.0	7.3	
16～29歳 (122)	10.7	20.5	10.7	31.1	27.0	
30～39歳 (185)	27.6	38.4	12.4	11.9	9.7	
40～49歳 (145)	28.3	46.9	9.0	9.7	5.5	
50～59歳 (133)	29.3	50.4	9.8	6.8		
60～69歳 (198)	50.0	33.3	10.1			
70歳以上 (132)	53.8	26.5	13.6			

年齢別では、16～29歳で「ほとんど読まない」と「見たことがない」の合計が 41.8%でしたが、その他の年代では「よく読んでいる」「ざっと目を通す」の合計が 6 割以上でした。

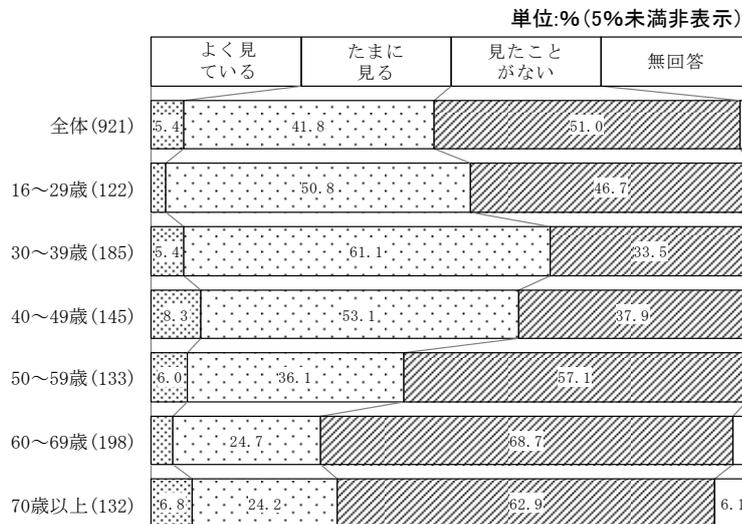
問 29 あなたは、市の公式ホームページをご覧になったことがありますか。

【問 29. 市の公式ホームページの閲覧状況】



市のホームページを「よく見ている」が 5.4%、「たまに見る」が 41.8%ですが、「見たことがない」が 51.0%と過半数を占めています。

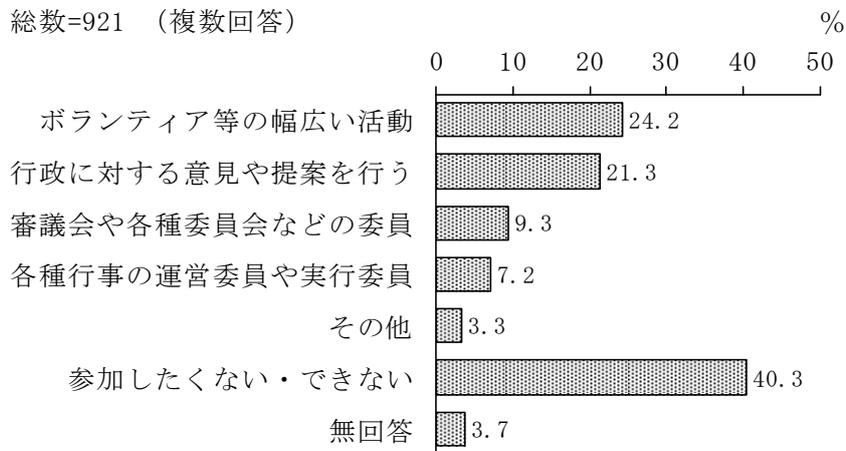
【問 29. 市の公式ホームページの閲覧状況（年齢別）】



年齢別では、50歳以上で「見たことがない」が過半数を占めています。

問 30 あなたはどのようなことで市の行政に参加したいと思いますか。

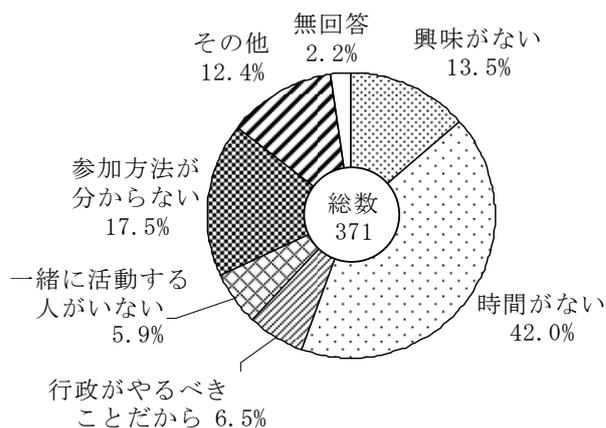
【問 30. 市の行政への参加方法】



市への行政の参加について尋ねたところ、「参加したくない・できない」が最も多く 40.3%、次いで「ボランティア等の幅広い活動」が 24.2%、「行政に対する意見や提案を行う」が 21.3%でした。

問 30-1 問 30 で 6 に ○ をつけた方におたずねします。参加したくない・できないと思った理由はなんですか。

【問 30-1. 参加したくない・できない理由】



「参加したくない・できない」理由は「時間がない」が最も多く 42.0%、次いで「参加方法が分からない」が 17.5%、「興味がない」が 13.5%でした。

【問 30－ 1. 参加したくない・できない理由（年齢別）】

単位: % (5%未満非表示)

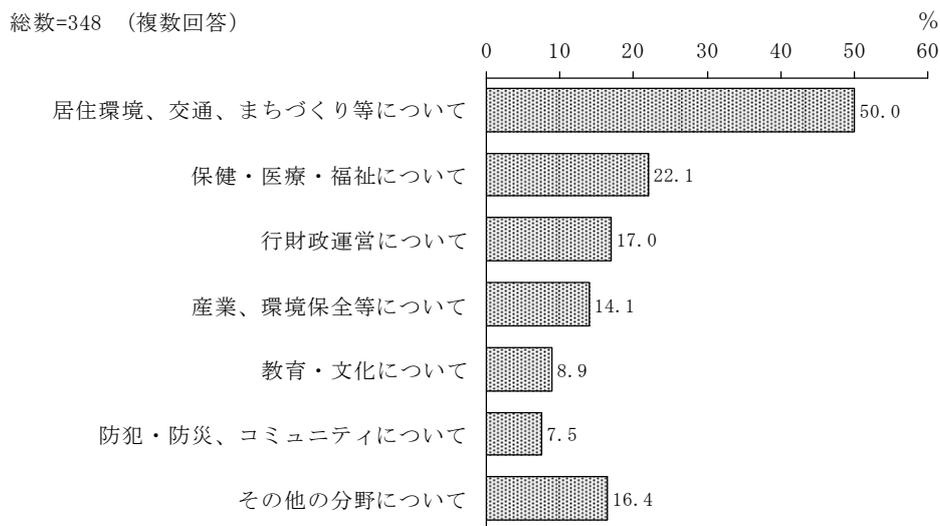
	興味が ない	時間が ない	行政がやるべ きことだから	一緒に活動す る人がいない	参加方法が 分からない	その他	無回答
全体 (371)	13.5		42.0	6.5	5.9	17.5	12.4
16～29歳 (50)	26.0		46.0			6.0	12.0
30～39歳 (70)	8.6		62.9			5.7	11.4
40～49歳 (50)	12.0		62.0			8.0	14.0
50～59歳 (48)	14.6		45.8		6.3	18.8	8.3
60～69歳 (81)	8.6		34.6	11.1	9.9	22.2	12.3
70歳以上 (69)	15.9	8.7	5.8	24.6		34.8	7.2

年齢別では、16～29歳で「興味が無い」が他の年代より高くなっています。また、60歳以上では、「参加方法がわからない」が他の年代に比べて高くなっています。

5 自由記述

自由記述の内容を分類したところ、最も多かったのは「居住環境、交通、まちづくり等」に関する内容で50.0%、次いで「保健・医療・福祉」が22.1%、「行財政運営」が17.0%、「産業、環境保全等」が14.1%、「教育・文化」が8.9%、「防犯・防災、コミュニティ」が7.5%でした。

【自由記述の内容別件数】



〈居住環境、交通、まちづくり等に関する主な意見〉

- ・ 稲城長沼駅周辺の整備計画が進んでいないが整備計画はどのようになっているのか。説明が不足しているように思います。
- ・ 梨畑のある稲城の町が大好きです。
- ・ 谷戸、水辺を保存、育てて欲しいと願っています。
- ・ 公園や緑地には生物と触れあう機会はなく、もっと里山という昔からあった自然を残して欲しいと思います。
- ・ 出来るだけ今の緑を残すような宅地開発を希望しています。
- ・ 自宅の窓からは緑たっぷりの南山が見えます。どうか、このかけがえのない緑をなくさないようお願い致します。
- ・ 小学生の子どもが帰宅してから、自由に遊べる公園がありません。若葉台公園のような広い場所が稲城駅周辺にも必要です。
- ・ 水と緑の美しい街ということで越してきました。
- ・ ほたるがいる。カブトムシがいる。オオサンショウウオがいる。サワガニがいる世界を子ども達に残してあげたい。
- ・ 多摩丘陵と武蔵野の自然、風情を合わせ持つ特徴を生かした顔を持って欲しい。

- ・自然が豊かで、空気の綺麗な地域であって欲しい。
- ・稲城市の個性を多摩川を利用してもっと出して欲しい。
- ・三沢川がとても汚い。何とかありませんか？
- ・歩道があっても極端に狭かったり、歩道の役目を果たしていない狭い道路を何とかして下さい。
- ・新しい所にばかり目がいって、古くから住んでいる人々の周りの環境が整備されていないように思います。
- ・必要以上の区画整理は絶対に行わないでもらいたい。
- ・既存地域とニュータウン地域の融合とバランスを常にとって欲しい。
- ・駅前をもっと開発し、スーパーなどのショッピング施設を誘致して欲しいです。
- ・南武線の増便や快速化などもっと利便が良くなるように働きかけて欲しいです。
- ・南武線の稲城長沼駅と南多摩駅の高架線完成に合わせて、両駅周辺の商業施設とバス、タクシーの運行充実をお願いしたい。
- ・京王線の急行を若葉台駅にも停車するよう働きかけて欲しい。
- ・今現在、稲城市立病院への通院をしています。バスの本数が少なすぎるのでとても不便です。
- ・稲城駅前に住んでいますが、稲城市立病院へはほとんどタクシーで行く事になってしまい、負担が大きいです。
- ・iバスの時間、コースを再考して、せめて1時間に1本くらい利用できるようお願いできませんか。
- ・商業店舗の誘致と交通ネットワークの強化を図って頂きたい。
- ・住みよい街に選ばれた割に、よみうりランドの駅前はかなり寂れている。
- ・ランド坂はトラックなどが多く、スピードを出す車も沢山いて、歩道を早く作って欲しい。

〈保健・医療・福祉に関する主な意見〉

- ・防犯、医療など高齢者に住みやすいまちづくりを望みます。
- ・高齢者施設の利用状況などが分かるように広報などでもっと教えて欲しい。
- ・高齢者用に家賃が少しでも安く入れる住宅が欲しいです。
- ・稲城市立病院は市立なので、市民が利用する際に市外の方が利用されることと比較して、何らかのメリットがあっても良いのではと思います。
- ・成人の健康診査を充実させて欲しい。
- ・市立病院は市内でひとつしかない総合公立病院なのでもっと市民が頼れる存在になって欲しい。
- ・小学校まで医療費を無料にして欲しい。
- ・高齢化社会に向け、介護認定について認定調査の基準の見直して欲しい。
- ・学童保育は、子どもの安全、防犯を考えたら重要です。建設や開発ばかりでなく、安全や充実に多くの市税を使う市であって欲しいです。
- ・家の近くの保育園に入れるようになると良いと思う。

- ・引っ越してきて、空気の綺麗さ、街並みの綺麗さに感心しました。子育てしやすい環境（保育施設、医療施設の充実、他の子育て家庭との交流）を整えて頂けるともっと良いと思います。
- ・子どもを育てていく上で、他市に比べて、経済的に補助の少ない街だと思いました。今後子育てしやすいようにどんどん改革して欲しい。
- ・乳幼児検診や予防接種などの保健センターのサービスや対応を土日もして欲しい。
- ・2人目の子どもも1人目と同じ保育所に入所できる制度と、子育て支援金の充実をお願いしたいと思います。
- ・児童館で子育てサークルのようなものを職員主体でやって欲しい。
- ・魅力ある街を維持するには子ども達が楽しく過ごせる場（ソフト面で）の充実が必要と考えます。
- ・大型マンションの建設をするからには保育園の整備や乳幼児のサービスの充実を図ってからのすべきだと思います。
- ・稲城市の場合は子どもに関する窓口を一本化し、子どもに関すること等の相談をしやすくして欲しい。
- ・平尾地区は緑が多く静かなので、子育てしやすく気に入っていますが、児童館のオモチャが壊れているものやあまり綺麗でないものが多いので、少し改善して欲しいです。

〈行財政運営に関する主な意見〉

- ・市と市民とのキャッチボールが少ないと感じる。
- ・市は今回のような意識調査で得た市民の声をもっと市政に反映すべきである。
- ・市民全員に広報いなぎを配布して下さい。
- ・市民が気楽に参加しやすくなるよう工夫して欲しい。
- ・市内の公共施設、病院、お店などの情報があると便利。
- ・箱物行政はせず、そのお金は市民生活充実の方に向けて欲しい。
- ・将来を見据えた市職員の人材育成を切に願います。
- ・土日曜日の市役所の窓口業務を広げて欲しい。

〈教育・文化に関する主な意見〉

- ・若葉台・長峰地区は、とくに小学生が多いが地域の大人が非行防止に今のうちから努めるべきである。
- ・小中学校における英語教育を徹底させるべきだと思います。
- ・道徳教育を徹底する。
- ・中学校のすべての部活での市民大会への参加。
- ・先生がいないからと部活を廃止するのはやめて欲しい。
- ・学校の先生を市で選べることで出来る体制にする。

- ・若葉台小学校は人数が多すぎるのですが、先生方の体制が素晴らしく、不安が解消されました。
- ・いつも入れる温水プールを作って欲しいです。
- ・テニスコートの予約、抽選をパソコンから出来るようにして欲しい。
- ・東京ヴェルディを応援する街として南山にスタジアムを建設し、もっと盛り上げて欲しい。
- ・中央図書館がとても良い。
- ・仕事上、転居が多いのですが稲城市の図書館はとても設備、蔵書共に充実していたと思います。
- ・長峰地区に図書館の本の返却ポストをおいて欲しい。
- ・テニスコート、屋内プールなど、スポーツ施設をもっと充実させて欲しい。
- ・南山開発に伴い、グラウンド使用が出来なくなったので、代替りの場所を提供して欲しい。
- ・コンサートなどが出来るホールや、スポーツの合宿が出来るような施設があると良いなと思います。

〈防犯・防災、コミュニティに関する主な意見〉

- ・高齢者のコミュニティや世代間交流のコミュニティ構築に向けて、積極的なビジョンを示して欲しい。
- ・緊急放送が聞き取りにくい。
- ・住みやすい町ですが、地域の人間との接点がほとんどなく、冷たく感じます。もっと近所が助け合って生活出来るようになればと思います。
- ・地域のつながりも残っている場所が多く、昔のような地域共同活動がまだまだ期待できる街だとも思います。
- ・近隣同士では直接言いづらいものを市が解決してくれると助かります。
- ・向こう三軒両隣の付き合いや、人と人の触れ合いによる思いやりなどが失われつつあるように感じます。
- ・夜道が怖いので、街灯をもっと付けて欲しいです。
- ・犯罪のないまちづくり。
- ・交通死亡事故が多い市なので、街灯、ガードレールの充実。
- ・警察でも地域のボランティアでも良いので、もっと頻繁に防犯パトロールをしてもらいたい。
- ・暴走族みたいな騒音がうるさいバイクを早急に警察と連携し取り締まってください。
- ・市内に警察署を。
- ・京王稲城駅と南武線稲城長沼駅周辺に交番がないので作って頂ければ、安心につながります。
- ・東京消防庁への事務委託を希望します。
- ・大地震の可能性によるシミュレーションを活かし、安全性を重視した対策を。
- ・街灯をもっと増やし、夜でも安全性を十分確保できるようにして欲しい。